アジア太平洋地域の女の子たちの気候正義活動とリーダーシップ

最終報告書

2023年3月

プラン・インターナショナルへ寄稿：
Minh Tran
Pimolporn Jintarith
Michael Boyland
Albert Salamanca

目次

4 **概要**
7 **I. はじめに**
8 **II. 調査方法と枠組み**
9 2.1. 文献レビュー
9 2.2. オンライン調査
10 2.3. ソーシャルリスニング
11 2.4. インタビュー
11 2.5. 枠組み
11 2.6. 制約事項
12 **III. 縮小する空間、高まる声：気候変動に立ち向かうユース女性活動家**
13 3.1. 市民スペース
14 3.2. 政策背景
14 3.3. ユース主導の気候変動運動
15 **IV. オンライン化：ユース女性活動家のソーシャルメディア活用**
16 4.1. ソーシャルメディアを活用する活動家
19 4.2. ソーシャルメディアを活用した提唱活動
22 **V. 行動からアドボカシーへ：気候正義を唱えるユース女性たち**
23 5.1. 気候変動と社会正義の交差
25 5.2. 手法と戦略
27 **VI. ユース女性活動家：一人一人の物語と結束の力**
28 6.1. 変化を求める個々の希望
29 6.2. 主体性とリーダーシップ
30 6.3. 忍耐力と持続性
31 6.4. 多様な利害関係者との提携と支援
32 **VII. 「それでも私の足は止まらない」：提唱活動の道程と課題**
33 7.1. 幸せと安全への影響
34 7.2. まともに受け止めてもらえない現実
35 7.3. ジェンダー規範と不平等
35 7.4. 誤った描写
36 7.5. 市民参加とその他の優先事項の両立
38 **VIII. 結論**
39 **IX. 提言**
40 9.1. 政府関係者向け
40 9.2. 市民社会アクター向け
42 9.3. ユース活動家向け
43 **X. 参考文献**
46 **付録A: 文献レビューにあたっての検索キーワード**
46 **付録B: Meltwaterの検索キーワードの仕様**
47 **付録C: オンライン調査アンケート**
51 **付録D: インタビューのためのガイドライン質問**
53 **付録E: インドネシア、ネパール、ソロモン諸島における気候変動対策とユース**

私たちの世代は、そう、声を上げている。
海面が上昇するにつれて
私の遺産は今、かつてない脅威にさらされている。
私たちが今立ち上がらなければ、
誰が私たちのために立ち上がってくれるだろうか。

出典：The Islands Are Calling、2021年

概要

女の子とユース女性は、気候変動における脆弱性とアクションの両方で中心的な存在である。ジェンダーや年齢、その他のさまざまな要因が、彼女たちの気候変動への脆弱性に影響を与える一方、彼女たちは様々な方法で挑戦し、行動を起こし、コミュニティや政策をさまざまなレベルで変えている。この過程において、サポートを受けながらも、彼女たちは自らの声を届ける際の障壁に直面し続けている。

気候正義を提唱し、「縮小する市民スペース」に立ち向かうために、彼女たちがどのようにソーシャルメディアのようなツールやその他の手法を活用しているのかについて、十分に記録された研究は少ない。本報告書は、アジア太平洋地域で気候変動対策と正義を追求する女の子とユース女性の役割を記録し、この知見のギャップを埋める一助となる。ここで紹介されるデータと結果は、アジア太平洋地域の3カ国に住む30人の女の子、ユース女性、その他の主要なステークホルダーの視点の描写である。更に、オンライン調査、文献調査、ソーシャルメディアを通じた聞き取り調査によって、彼女たちの意見は適切な文脈に沿ったものとなった。

以下は、この研究から得られた主要な知見である。

気候変動運動における女の子とユース女性：ユースが主導する気候変動運動では、個人や地域から国家、国際的なものまで、様々なレベルでユース女性の存在感が増している。アジア太平洋地域の女の子やユース女性たちは、環境問題に対処するため、オンライン／オフラインを問わず、多様な方法で声を上げ、実行可能な解決策を提案している。ユース女性リーダーたちは、オンラインでもオフラインでも、多様な利害関係者と連携し、政策の変更や説明責任を求め、日々の変化をもたらし、意識啓発のために情報を共有している。彼女たちはまた、気候変動の影響に対して不平等に脆弱で、社会から疎外されているグループに対する注意喚起も行っている。ジェンダー平等と社会正義は、彼女たちのアドボカシーの中心テーマである。

ソーシャルメディア上のユース女性活動家：アジア太平洋地域の気候変動分野において、女の子やユース女性に関するソーシャルメディアの話題は、彼女たちを闘士、歓迎されない市民活動家、気候変動の被害者として描いている。この分野において、ソーシャルメディア上での意見の大部分は中立であり、否定的な意見がやや多い。国連気候変動会議などの国際的なイベントの際、女の子やユース女性の存在がより注目されるが、その注目度やコンテンツの共有は短期間にとどまる。

ユース女性活動家のソーシャルメディア活用：調査に参加した女の子やユース女性は、自身のメッセージを広め、オフラインでの提唱活動を補完するため、ソーシャルメディアやデジタルプラットフォームを積極的に利用している。彼女たちは、ソーシャルメディアが、より広いネットワークとのコネクションや協力、コミュニティを越えて一般の人々や他の提唱仲間にアプローチするのに役立っていると認識している。だが、多くの人が「バーチャルなつながりがオフラインの活動に取って代わることはできない」、と考えている。また、ソーシャルメディアの利用には、濫用やサイバー攻撃、ネットいじめなど、リスクや制約が伴うという意見も見られた。

ユース女性活動家の強みと力：一般的にユースは次世代を担う者として他者に影響を与えるような力や権威を持っている。彼女たちは組織的な後ろ盾がなくても自立しており、希望に満ちている

と見られている。この地域の女の子やユース女性は、単に社会的な肩書のみならず、道徳的な権威を持っている。彼女たちは、気候変動の影響に関する個人的な体験や記憶から、鼓舞され、動機づけられていると報告している。本調査によると、気候変動の不平等な影響を直接経験することが、彼女たちの提唱活動を変え、主導権を握る原動力となっている、という。批判や支援の欠如に直面しながらも、彼女たちは持続的に気候変動運動を続ける。その理由は、彼女たち自身の信念と願望によるという。彼女たちは、変化を追求するためのさまざまな道を探りつつ、戦略の改善に取り組んでいる。

提唱活動の戦術と手法：ユース女性活動家は、彼女たちが関わる集団や組織の中での意思決定において主要な役割を果たしている。利害関係者とのインタビューによると、彼女たちは政府や成人活動家に影響を与えている。アジア太平洋地域の気候変動運動活動家やリーダーの経験には多くの要因が影響しており、市民活動のスペースの縮小を背景に、彼女たちは伝統的な場と新興の場の双方で活動している。しかしそれは、身体的リスクや逮捕、精神的健康への影響など、様々なリスクを伴う。

提唱活動の経験と課題：女の子やユース女性は、新しい真実の視点を持っている一方、多くの大人たちは真摯に彼女たちの意見に向き合わず、表面的なレベルのみで接することがある。気候変動活動やその他の提唱活動は、女の子やユース女性の心身の健康に悪影響を及ぼす可能性がある。この地域の多くの場所で根強く残るジェンダー規範は、彼女たちの公共の場への参加や発言を制限している。変革を実現しようとする中で、ユース女性活動家はしばしば、自身の時間を効果的に管理し、学業や提唱活動などの責任との間でバランスを取らなければならない。その中で、妥協の必要性や要件を適切に調整する方法が含まれる。

提言

アジア太平洋地域の女の子とユース女性の参加とリーダーシップを強化するため、地方政府から国家政府、さらに地域機関を含む各レベルの政府は、開かれた抱摂的な場の提供が求められる。この調査を踏まえ、以下のことを提案したい。

- 各省庁は、ユースの政策立案・実施への参加を促すための、ユース協議会のような正式なメカニズムを設立、維持すべきである。
- 女の子やユース女性が気候関連の意思決定に効果的に関与できるよう、別途予算を割り当て、政府高官の能力を向上させるべきである。
- 市民活動や気候変動運動への女の子やユース女性の参加を妨げる障壁を特定し、対策を講じるべきである。
- 一般市民のジェンダーと社会的平等、気候変動、災害への認識を深めるとともに、女の子やユース女性が気候変動運動を主導するための開かれた市民スペースや環境を整備するべきである。
- ジェンダー平等、気候変動、サイバーセーフティの教育を拡充し、若い世代に必要な知識と能力を提供し、ユース主導の気候変動運動を促進すべきである。

NPOや草の根活動、ユースを中心とした団体などの市民社会アクターは、国連機関、多国間組織、政府間組織などの国際的な組織や機関との協力を通じて、気候変動運動や提唱活動における女の子とユース女性の能力強化が可能である。そのための具体的な取り組みとして、次のようなことが挙げられる：

- 地方、国、地域レベル、そしてそれ以上のレベルで、主要な意思決定者との連携を強化し、変革の担い手としての女の子とユース女性の能力の重要性を強調するような政策を推進するべきである。
- 女の子とユース女性をリーダーとして、また変革の担い手として迎え入れるための、包摂的かつ安全な市民スペースを推進するため、多様な市民社会アクターと連携する。

- 女の子やユース女性主導の取り組みを支援するための資金調達を推進すべきである。
- ユース女性活動家同志の学びや交流を深めるための地域プラットフォームを設立し、彼女たちの政治的能力や市民としての活動を継続的に実践するための能力を向上させる。このために、財政的、物質的、そして能力開発の面での支援を提供するべきである。
- 障害者など、社会から疎外されがちな女の子やユース女性の有意義な参加を奨励し、増やすために、彼女たちの集団への資源提供を推進させるべきである。

アジア太平洋地域で活動する女の子やユース女性は、自らのコミュニティや社会におけるリーダーや変革者として積極的に行動する一方、平等を追求する活動も推進している。このような役割転換を実現するために、以下の取り組みが考えられる。

- 同じ目的のために活動するユース女性活動家や、各国・地域のユースグループとの連帯を強化し、活動の両立方法や、公からの批判への対応方法などの経験や課題、さらにはツールや戦術、戦略の共有を通じて、相互支援を図るべきである。
- 地方や遠隔地からの参加者、少数民族出身者、障害者、さまざまなジェンダーや性を持つ人々など、多様なユース女性活動家が、集団や運動に平等に参加できるような機会やアクセスの提供を推進すべきである。
- ソーシャルメディアを活用して情報やメッセージを広く伝えるとともに、国際政策フォーラムのような注目度の高いイベントを機に、ソーシャルメディア上での発信を強化して声やメッセージをさらに拡散させるべきである。

はじめに

女の子やユース女性は、気候変動の影響と対策の双方で中心的な役割を担っている。調査によると、彼女たちは、より多くのリスクにさらされながらも、変革に向けた強力な推進力として機能していることが明らかになった。

女の子やユース女性は、年齢やジェンダー、その他さまざまなアイデンティティの複合により、気候変動に関連する極端な事象や天候の変動・災害が生計や教育、健康、生活の質に及ぼす影響を直接感じている（Boyland & Johnson, 2018）。例えば、プラン・インターナショナル（n.d.）によると、2025年までに毎年1,250万人の女の子が、気候変動の影響で学校教育を修了できない可能性があるとされている。

女の子やユース女性は、さまざまなリスクにさらされている一方で、変革を求める活動家でもある。ユースは一般的に気候変動の適応や緩和措置に積極的に関与しており、10人の女の子のうち8人が気候変動問題に対して行動を起こしているとされている（Plan International, n.d.）。また、彼女たちは気候変動に関するキャンペーンや運動のリーダーとしても活躍している（Boyland et al., 2021）。彼女たちは、ソーシャルメディアや新しいデジタル技術を活用し、社会的変革を推進している。

ユースのリーダーシップは、今のビジネスモデルや既存の構造を革新し、より抱摂的で公正かつ持続可能な未来を構築する可能性を秘めているにも関わらず、多くの障壁に直面している。特に女の子とユース女性は、ジェンダーに関する不平等や規範、力関係と向き合わざるを得ない状況にあり、女の子とユース女性のうち3人に11が、気候変動ガバナンスのプロセスへの参加に「自信がない」と答えている（Plan International, n.d.）。

世界中でユースを中心とした気候変動運動の規模と影響は拡大しており、これは私たちに彼らの声や力、そして彼らの主体性の重要性を改めて認識させる。しかしながら、女の子やユース女性が、縮小する市民スペースにどのように対処し、またデジタルプラットフォームやソーシャルメディアをどのように活用し自らのメッセージを広め、気候正義と社会的包摂を推奨しているのかに関する調査はまだほとんどない。本調査は、アジア太平洋地域における気候変動に関する行動や正義を求める女の子とユース女性の役割に焦点を当て、実際の事例や彼女たちの経験や知識を基にして、このギャップを埋めることを目指している。

本報告書の調査参加者は、アジア太平洋地域出身で、気候変動に取り組む女の子とユース女性であると自己認識している者たちだ。本報告書において、「女の子とユース女性」とは、女の子または女性であると自認する15歳から24歳までの者を指す。「ユース女性活動家」は、リーダーや活動家、影響力のある者を指す。「提唱活動」には、リーダーシップや実際の取り組みも含まれる。

本調査における「ユース女性活動家」という用語は、気候変動対策や災害回復力、持続可能な開発をテーマにした様々なレベルや組織の活動、また学校、コニュニティ、国家レベル、地域レベル、世界レベルなど、何れのレベルの活動家を指すもので、オンラインやオフラインの形式にこだわらない。

「気候変動運動」とは、気候変動に関する様々な取り組みを指し、これには適応や緩和策、損失やダメージへの対処、そして政策変更のための圧力をかけるための活動や提唱活動が含まれる。

II.

調査方法と枠組み

本調査の方法として、文献や政策文書のレビュー、ツイッターでのソーシャルリスニング、さらにユース女性活動家を対象とした各地域オンライン調査などが採用された。具体的な事例研究として、インドネシア、ネパール、ソロモン諸島の3か国を選定し、詳細な調査を行った。これらの国々における事例研究は、ユース女性活動家や市民社会組織、政府関係者とのキー・インフォーマント・インタビュー(KII)を基にして行われた。選出された3カ国は、プランが活動する地域、東南アジア、南アジア、太平洋のサブリージョンを代表する国として選ばれた。

2.1. 文献レビュー
2.2. オンライン調査
2.3. ソーシャルリスニング
2.4. インタビュー
2.5. 枠組み
2.6. 制約事項

2.1. 文献レビュー

アジア太平洋地域の灰色文献や学術文献、政策文書のレビューを行い、該当地域と対象国の知識や政策の現状を詳細に把握した。リソースや能力の制約のため、文献レビューは英語の文書および出版物に限られて実施された。

学術文献の調査は、EBSCOhostとGoogle Scholarを利用して、ジャーナル記事や書籍、各章などを検索した。一方、灰色文献や政策文書については、Googleを通じて行われた。また、Google検索では、ユース女性活動家自身の書いた記事や彼女たちに関する新聞、雑誌、ブログ記事も探索した。検索に使用したキーワードは、「climate change」、「young people」、「engagement」を組み合わせたものであった。（具体的な検索用語については付録Aを参照）。

文献レビューの結果、いくつかの重要なギャップが明らかになった。アジア太平洋地域での女の子やユース女性の気候変動に関する活動や提唱に関する研究は、まだ十分でないことが確認された。一方、グローバルノースでは、女の子やユース女性の参加を含む、ユースの主導する気候変動運動に、より多くの注目が集まっている。さらに、多くの文献は、他のアクターやメディアによって女の子の活動がどのように受け止められているかを主に取り上げているため、女の子たちの直接の経験や視点を捉えた研究は少ない。セクションIIIおよびセクションIVでは、これらのギャップを埋めるための詳細を記述する。

2.2. オンライン調査

アジア太平洋地域での女の子やユース女性の気候変動に関する提唱活動や参加の状況を把握するためのオンライン調査を実施した。この調査では、彼女たちの活動や提唱の目的、機会、障壁、課題、そして 利用しているツールやアプローチに関する情報を収集した。

調査は英語で作成され、その後バングラ語、バハサ・インドネシア語、クメール語、ラオス語、ネパール語、タガログ語、タイ語、ベトナム語、テトゥン語、ピジン語に翻訳された。アンケートの実施はQuestionProを使用し、プラン・インターナショナル・アジア太平洋地域事務所や各国のプランの事務所、SEIアジアのネットワークを通じて、Eメールやニュースレター、ソーシャルメディア、その他の方法で拡散された。調査期間は2022年9月19日～ 2022年10月7日までであった。

結果として、合計218名から有効かつ完全な回答が得られた。これには、19歳以上が184人、18歳以下 が34人という内訳で、アジア太平洋地域の16カ国からの回答が寄せられた（図1参照）。

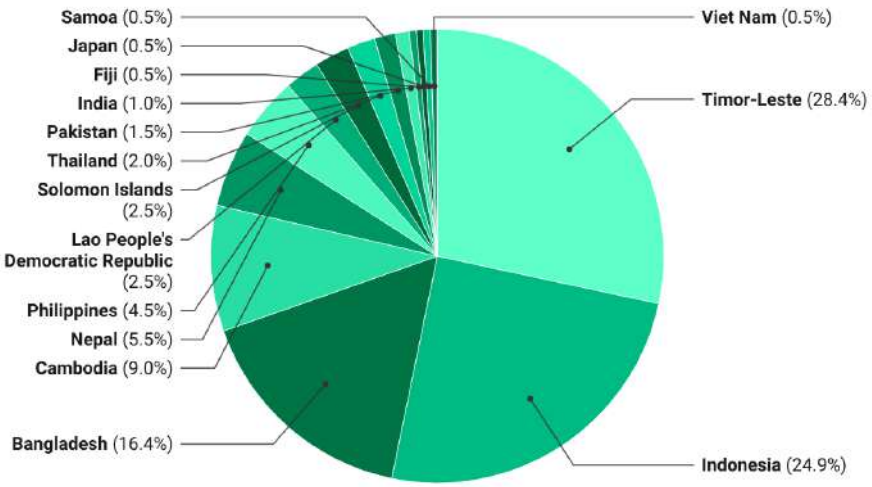


図1. 回答者の居住国（回答者数：202 ）

回答者のうち、10%が障害者であり、42%が先住民グループまたは少数民族の一員であると答えた。およそ60%が都市部に住んでいるのに対し、30%が地方に住んでおり、残り10%は半都市部または半地方に居住している。回答者教育状況を見ると、67%が大学生、20%が高校生、5.5%が中等または初等学校の生徒であり、有職者は5%、無職者は2.75%であった。

気候変動運動への関与に関して、回答者の半数は1年未満、36%は1～2年、10%は3～5年、6年以上と答えたのは5%に過ぎなかった。また、62%の人が独自に活動しており、残りは集団や団体に所属しているか、その中で活動している。

2.3. ソーシャルリスニング

ソーシャルリスニングとは、特定のキーワードを使ってソーシャルメディアやオンラインプラットフォームでの会話や言及を追跡する手法である（Pomputius,2019）。マーケティングの分野では、この手法を使い消費者の理解を深め、インサイトを得るのが一般的である。このプロジェクトにおいては、Meltwaterというソーシャルリスニングツールを使って、ユース女性や女の子が自身をどう位置づけているのか、またオンラインでの発言や活動、リーダーシップの傾向を調査した。

調査には、事前にリストアップされたキーワードやハッシュタグを使用し、2021年9月から12ヶ月間にわたり、アジア太平洋地域全体（59カ国）の結果を取得した（詳細は付録Bを参照）。ただし、資源の制約から、キーワードは英語のみを対象とした。当初、調査チームは、Facebook、Instagram、Twitter、TikTokという4つの主要なソーシャルメディアでの検索を計画していたが、プラットフォームのポリシーの制約により、最終的にはTwitterのみを分析することができた。

この調査結果では、7,000のユーザーから約9,000のツイートが取得でき、約7,400万人にリーチしたと推定されている。特にインド、オーストラリア、パキスタン、フィリピン、マレーシアが投稿の多い上位5カ国として挙げられた。これらの国々での英語の習熟度の高さが、多くの投稿が確認された理由として考えられる。また、Meltwaterの分析によると、投稿者の約半数は18～24歳で、60%近くが男性と特定された。これらのデータは、図2および図3で示されている。

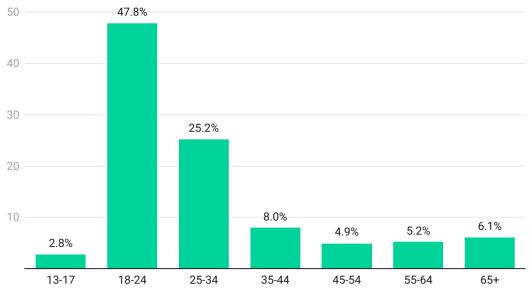


図2. 投稿者の年齢内訳

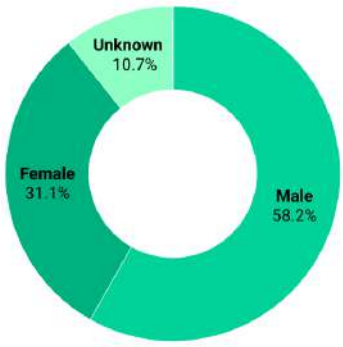


図3. 投稿者の性別

2.4. インタビュー

調査では、女の子やユース女性が気候変動運動にどのように参加しているのか、彼女たち自身の言葉と視点から、より詳細でニュアンスを含んだ理解を得るためにインタビューを行った。インドネシア7人、ネパールから8人、ソロモン諸島から6人、計21人のユース女性活動家を対象に、半構造化インタビューを行った。このインタビューは、地域全体の調査を補完するものとして、活動家としての彼女たちの活動や直面する課題、機会、戦略についての洞察を得る目的で行われた。

KII(情報保持者インタビュー)は、気候変動分野での他の関係者の視点を取り入れ、女の子やユース女性の気候変動への参画に関する理解をさらに深めること、および他の調査やインタビューで得た情報を補完するのに役立った。KIIは、3カ国からの市民団体や政府関連の代表者9人を対象に行われ、インドネシアから3人、ネパールから2人、ソロモン諸島から4人が参加した。

インタビュー対象者は、プランの各国事務所のネットワークを通じて選定された。インタビューは主に現地語で実施され、一部の参加者が英語を話す場合を除き、独立した通訳者によって双方向の同時通訳が行われた。

本報告書では、参加者の匿名性を保護するため、インドネシア(ID)、ネパール(NP)、ソロモン諸島(SI)での女の子やユース女性(G)や市民・政府機関関係者(KII)とのインタビューをコードを表記している。例えば、NP-G1はネパールのユース女性活動家とのインタビュー、SI-KII2はソロモン諸島の大人の関係者とのインタビューを示している。スポットライト・ストーリーにおける名前はすべて仮名である。

2.5. 枠組み

この調査は、ユースの関与に関する既存の枠組みや手法を基にしている(Boyland et al.)。以下の要素を取り入れ、分析の指針としている(図4参照)。

***社会的文脈**: 女の子やユース女性の活動を、社会的、歴史的、経済的、政治的背景の中で理解する。*

***実質**: 活動の内容、主題、および達成した成果。*

***過程**: 活動の期間、その深さ、抱摂性、継続性、そのメカニズム、および支援の方法。*

***力**: 女の子やユース女性の力の源泉、彼女たちが作り上げる影響の範囲、声や対話のパートナー、そして関与する力関係。*

***主体性**: 女の子やユース女性の役割、大人やサポーターとの関係性。*

図4. 調査の枠組み

2.6. 制約事項

本研究の調査方法にはいくつかの制約がある。第一に、調査設計、文献レビュー、ソーシャルリスニングを含む多くの作業は、英語を主要言語として使用した。オンライン調査は英語から10ヶ国語に翻訳され、インタビューは各対象者が最も話しやすい言語で実施した。しかし、アジア太平洋地域の多くの言語を使用する人々の意見やデータは、本調査の対象外である。

次に、この調査サンプルはこの地域のすべてのユース女性活動家を代表するものではない。参加者は、プランとSEIを通じて選ばれた。これらの組織は、ユース女性活動家や気候変動分野との幅広いネットワークを有しており、参加者の中には以前どちらかの組織に関わった経験がある者もいた。そのため、サンプルが偏っている可能性は考慮されるべきである。

また、プロジェクトの範囲とデータ量から、Meltwater検索で得られた不要なデータをすべて排除することはできなかった。しかし、全体として、この結果は大きな傾向を示している。

従って、調査結果は、上記の制約を考慮し、慎重に解釈されなければならない。しかしながら、本プロジェクトの手法は、多角的な視点や観点を取り入れることで、気候正義の中での女の子やユース女性の深い洞察を提供している。

III.

縮小する空間、高まる声：

気候変動に立ち向かうユース女性活動家

「最近、私たちユースがコミュニティ内で活動家や変革の担い手としての役割を果たすことが認められ、尊重されるようになりました。数年前のCOPではユースの姿を見かけることはなかったと思いますが、今では世界各地でユース・サミットや会議が開催されています。このような変化には本当に感謝していますし、私たちユースとして、このような場で尊重され、自分の意見が聞き取られていると感じています。そして、人びとがユースの視点を気候変動運動において知りたいと思っていることを実感しています。」

ID-G7

気候危機の緊急性に直面する中、ユースの意見と貢献は市民や政策決定の場においてはまだ十分に反映されていない。本セクションでは、ユース女性活動家がどのような市民・政策スペースで活動しているかを探求し、限られた環境の中で彼女たちの存在感と発言力がどのように拡大しているのかを示す。

3.1. 市民スペース

3.2. 政策的背景

3.3. ユース主導の気候変動運動

3.1. 市民スペース

アジア・太平洋地域の市民スペースは、依然として多くの制限を受けている。市民スペースの状況を評価するためのツールである「CIVICUS Monitor」のデータによると、アジア太平洋地域において、市民スペースが開放されていると評価をされた国は8カ国だけで、28カ国は市民スペースが制限されたり、妨害されたり、抑圧されているとされ、さらに4カ国では市民スペースが完全に閉鎖されていると評価されている（図12参照）。開放されている8カ国のうち、アジアに位置するのは1カ国のみで、残り7カ国は太平洋地域にある。

CIVICUSモニターによると、オーストラリアは言論の自由の制約が増加したため、2019年に「開放」から「制約有り」へと評価が下がった。シンガポールは基本的な自由の制約が増えたことから、2021年に「妨害」から「抑圧」へと評価が変わった。ソロモン諸島は、新たな法的制約の導入により、「開放」から「制約有り」へと格下げされた。一方、2021年に評価が向上したのはモンゴルだけで、新たな人権保護法の導入により、「妨害」から「制約有り」に格上げされた（CIVICUS、2021）。

事例研究によると、2022年10月現在、インドネシアとネパールは、「市民スペースが権力者によって大きく争われ、妨害されている」（CIVICUS Monitor, n.d.）。ソロモン諸島の市民スペースは制約を受けており、「国家は個人や市民社会組織の結社、平和的集会、表現の自由の権利を認めているが、これらの権利への侵害も頻繁にみられる」との評価がなされている（CIVICUS Monitor、n.d.）。

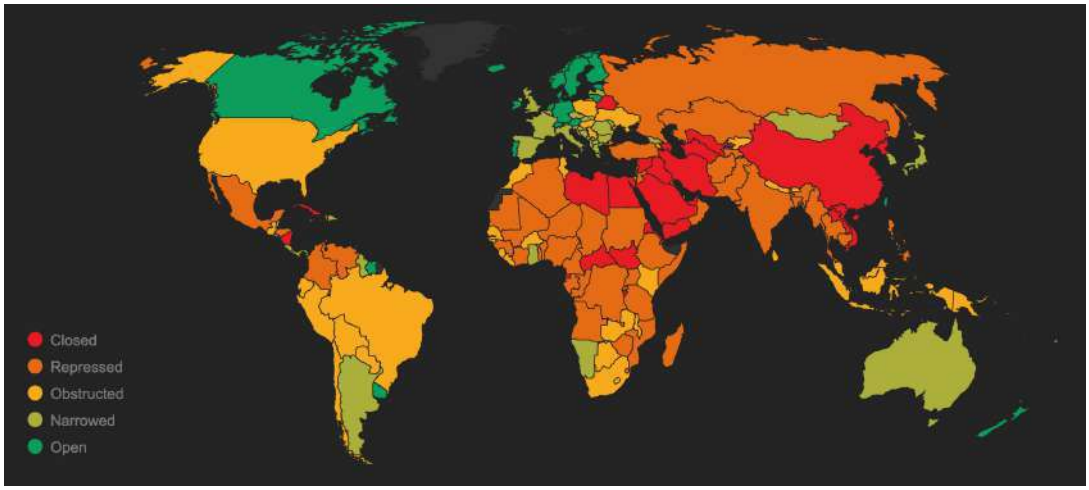


図12. CIVICUS Monitor (2022) National Civic Space Ratings. www. monitor.civicus.org より閲覧可能 (閲覧日2022年10月22日).

地理的な要因も市民の自由に影響を与えることがある。市民社会が活発でない場所や、共通の目的を持った集団や組織が少ない場所では、女の子やユース女性の活動や提唱活動が困難になることが考えられる（ID-G6）。また、移動が困難な地形や分散した群島がある場所では、活動家たちが、主要な都市中心部以外に広範囲にわたる活動を展開することが困難であると感じている（SI-G2、ID-G7）。

3.2. 政策的背景

現行の気候変動に関する政策を確認すると、女の子やユース女性が気候変動対策や意思決定に参加するための具体的な取り決めや規定は少ないことがわかる（付録E参照）。インドネシア、ネパール、ソロモン諸島の3か国では、多くの政策が、程度の差はあれ、子ども、ユース、女性といった脆弱なグループの参加を推進している。検討された政策の中には、特にネパールやソロモン諸島で、ユースの重要な役割を認識し、彼らの能力向上と組み込みをサポートするものも存在する。

しかし、私たちの考察によると、ユースは、変革の担い手というよりは、むしろ弱者として扱われることが多い。様々な疎外要因、例えば年齢、ジェンダー、障害、社会階層、民族性、人種など、そしてそれらがどのように交差して影響しているのかについての詳細な言及は見られない。これらの政策において、女の子やユース女性の意思決定過程における役割についての明確な指摘や言及もほとんど見られない。

また、3カ国とも、ユースを気候変動対策に参加させる政策と実施の間にはギャップが存在する（ID-G6、ID-G7、ID-KII1、SI-KII3のデータ参照）。インドネシアの市民団体の代表は、政策ではユースやその他の脆弱なグループの参加が原則と　して挙げられているものの、現実には彼らが活動から取り残されていることが多いと指摘している（ID-KII1）。インドネシア政府の今後の課題は、「政策の導入部分でのみユースの参加を述べる」のではなく、ユースの創造性やアイデアを発揮できる公的な仕組みを作ることだと考えられる（IDKII1）。ネパールの情報提供者からは、包括的な参画に関して、国の取り組みがさらに強化されるべきだとの意見が伺えた（NP-KII2、NP-G4）。同様に、ソロモン諸島の情報提供者も、啓発活動には多くの取り組みがあるが、現場での実践的な行動が求められると示唆した（SI-KII3、SI-KII1、SI-G2）。

3.3. ユース主導の気候変動運動

ユースは活動や訴訟、現場での取り組みを通じ、持続可能性を実現するための体系的な変化のけん引役を果たしてきた（Aggarwal　et　al.、2022年）。市民活動の場では、特に女の子やユース女性が、社会的な包摂や社会変革の推進者として注目され始めている。

歴史的に見て、女の子やユース女性の活動への参加は新しい現象ではない。しかし近年、政府や企業、メディアなどの権力を持つ機関からの注目が高まっている。過去10年間で「女の子の活動家は、ほとんど注目されていない政治的存在から、文化的に讃えられる存在へと急速に変わった」という認識が浮かび上がってきた（Taft、2020年、p.2）。この変化は、女の子たちの市民的・政治的な関与のさらなる拡大の道を開いた。

世界的な傾向を反映して、アジア太平洋地域でも、ユース女性活動家の認知度は向上している。インドネシア、ネパール、ソロモン諸島において、ユース女性活動家を中心に、気候変動運動におけるユースの役割は大きくなっていると報告されている（ID-G1、ID-G3、ID-G7、NP-KII1、SI-KII1、SI-KII2）。インタビューの回答者によれば、各国の女の子やユース女性は、気候変動や環境の保護に関して特に活発であるとされている。

例えば、インドネシアでは、ユース女性がユース男性に比べてより頻繁に懸念を表明し、その声がより効果的に届けられ、活動の場で存在感を放っているとの指摘がインタビューから得られた（ID-KII1，ID-G7）。ネパールでは、地方の政府と連携した女の子やユース女性が、気候変動に関する国際的なフォーラムに参加していると報告がある（NP-G2、NP-KII2）。ソロモン諸島の情報提供者は、地域のユースグループへの女の子の参加が増え、コミュニティ内での女の子の活動がより活発になってきたとの声を寄せている（SI-KII3、SI-KII2）。そして、これらの3カ国でインタビューを受けたユース女性活動家たちは、彼女たちのリーダーシップを男性の支持者やリーダーが支持し鼓舞してくれることを感じている。

IV.

オンライン化：
ユース女性活動家のソーシャルメディア活用

前のセクションでは、アジア太平洋地域における女の子やユース女性の活動背景、特に社会的・政策的な背景を概観した。ユース女性が気候変動問題に取り組む際の役割をよりよく理解するため、本セクションでは、アジア太平洋地域の気候変動運動における彼女たちの情報源や活動のツールとしてのソーシャルメディアの役割を考察する。ソーシャルリスニングの分析、文献レビュー、事例研究から得られた情報を基に、ソーシャルメディア上での彼女たちの描写や、彼女たちが自らの目的を実現するためのソーシャルメディア活用方法を検討する。また、ソーシャルメディアを活動のネットワーキングのツールとしての使用する際の限界やリスクにも触れる。

既存の文献では、伝統的なメディアにおける女の子の活動家の肯定的な描写に 焦点が当てられているが、それが必ずしも問題がないわけではない（Taft、 2020年; Vanner & Dugal、2020年）。私たちの調査によれば、この地域のソーシャルメディアでは、気候変動問題に取り組む女の子や若い女性に対する否定的なメッセージが広がっていることが分かった。これは、女の子が脆弱だとか、彼女たちの活動が非合法だという認識が依然として根強いことを示している。さらに、ユースがデジタルに精通し、ソーシャルメディアを上手に利用する世代だと一般的に考えられているが、本調査に参加したユース女性活動家たちは、ソーシャルメディア利用に伴う課題や限界を指摘し、それに対処するための手法にも言及している。

4.1. ソーシャルメディアを活用する活動家

4.2. ソーシャルメディアを活用した活動

4.1. ソーシャルメディアを活用する活動家

ソーシャルリスニングとは、ツイッターをはじめとするソーシャルメディア上でのユース女性活動家の描写を、センチメント、ピーク傾向、キーワードの分析などを通じて明らかにする手法である。収集された投稿には、女の子やユース女性に関するものと、ユース女性活動家自身によるもの、両方が含まれる。これらの投稿の多くは中立的ではあるものの、肯定的な意見よりも否定的な意見が多いことが分かった。この分析から、ユース女性活動家に関する全体的な認識や、彼女たちが「闘士」であるとか、歓迎されない市民活動家であるとか、気候変動の犠牲者であるといったイメージが伺える。また、女の子やユース女性に関する言及が最も多くなるタイミング、例えば注目されるイベントや世論が憤慨する際など、社会的な注目が高まる瞬間なども確認できる。肯定的であるか否定的であるかに関わらずが、この分析結果からは、ツィッター上での話題の急な拡散（バイラリティ）が、長期にわたるオンライン運動や議論の土台とはならないことを示唆している。

センチメント

センチメント分析を通じて、特定のトピックに対する人びとの感情や意見に関する深い洞察が得られる。ソーシャルリスニングツールであるMeltwaterは、自然言語処理アルゴリズムを使用し、投稿された単語やフレーズの感情や意見を解析する。これに基づき、コンテンツを肯定的、否定的、中立的の3つのカテゴリに分類する(W.、 n.d.)。肯定的や否定的な感情とその投稿の人気度（リツイートされる可能性など）の関連は、状況によって異なるが（Jiménez-Zafra et al.、2021年）、調査結果によると、感情的なメッセージがソーシャルメディア上でより注目されやすいことが示されている（Samuel et al.、2020年)。また、このセンチメントは、コンテンツの種類やユーザープロフィールとも相互作用し、デジタルプラットフォーム上での情報の伝播方法を形成する要因となる（Jenders et al.、2013年）。

ツイッターの投稿において、多くは中立的な内容であるが、女の子やユース女性に関連する気候変動提唱活動についての否定的なツイートの数が肯定的なものより多いことが観察された。調査期間中、投稿の約半数が中立的で、30%が否定的、20%が肯定的であった（図5参照）。この結果は、インドの特定の事件に見られるような公然たる憤りが影響を与えている可能性がある。この事件では、否定的な内容は直接的に女の子やユース女性への攻撃ではなく、彼女たちが脆弱な立場にあることを証明するものだった。これは、ツイッター上で否定的なメッセージがより注目されやすく、迅速に拡散される傾向があることを示唆している（Jiménez- Zafra et al.、2021年; Tsugawa & Ohsaki、2017年）。

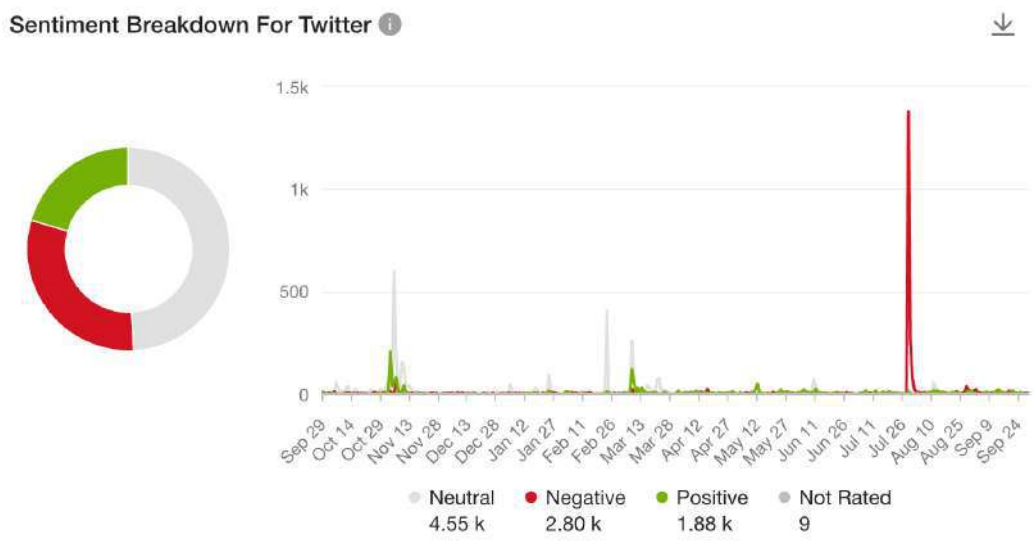


図5. ソーシャルリスニングを用いたセンチメント分析

情報のピークと拡散傾向

ソーシャルメディアにおけるニュースや情報の伝播に関する調査は、情報がメディアを通じてトップダウンの一方行の伝達やボトムアップの共有による拡散、またはその組み合わせで視聴者に伝えられることを示唆している。ソーシャルメディアではトップダウンの伝達が依然として主流であり、ボトムアップの拡散はまれである。しかし、重要なイベントの際には、多くのユーザーがそのイベントに注目し、ソーシャルメディア上での共有が急増し、情報が広範なネットワークに迅速に拡散されることがある（Wihbey、2014年）。

ソーシャルリスニングの結果として、国際的なイベントがオンラインでのキャンペーンや活動の重要な窓口となることが明らかにされた。2021年9月29日から2022年9月29日の調査期間中に、検索キーワードの言及が急激に増加した4つのピークが確認された（図6参照）。しかし、これらのピークは短期間であり、他の社会運動と同様、長期的な関心を維持するのは難しいようである（Conover et al.、2013年を参照）。

最初のピークは2021年10月25日から11月12日で、第26回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP26）期間と重なった。次のピークは2022年3月の第66回女性の地位委員会（CSW66）期間中で、最も注目されたテーマCOP26における女の子の参加と気候変動中の女性の役割であった。

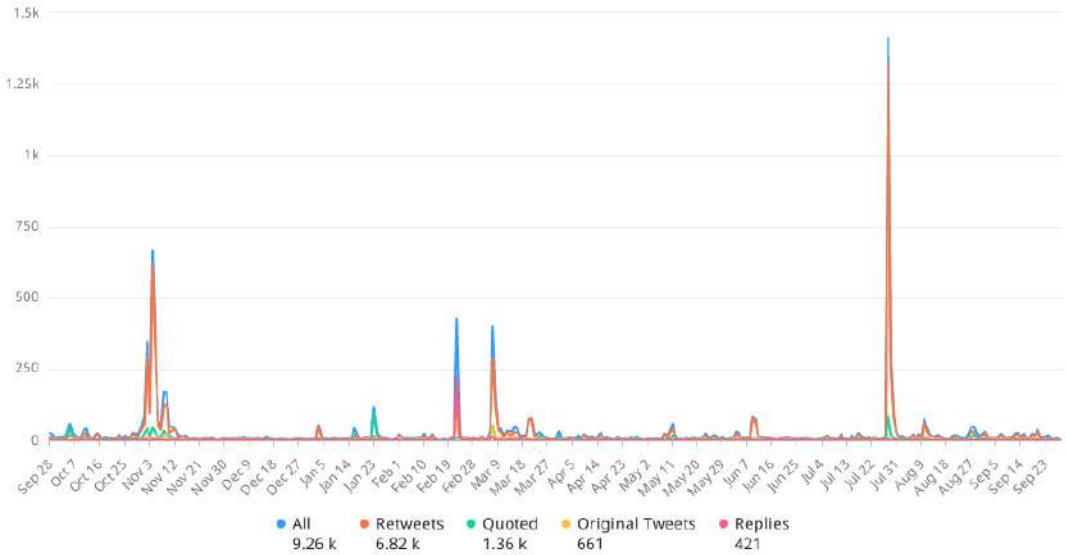


図6. ソーシャルリスニングによるツイッター上の言及の分析

地域的、あるいは国内の出来事や事件も、世間の注目を集めるきっかけとなる。別のピークが2022年2月に見られ、これは韓国の有名なエンターテインメント企業が女の子の活動やリーダーシップを支援するのではなく、非代替性トークンビジネスを推進したことに対して、主に韓国のツイッターユーザーが反発したことに関連している。

調査期間中に最も大きかったピークは2022年7月に確認され、マディヤ・プラデシュ州の洪水によって、通学する女の子の映像が急速に拡散されたことに関連している。インドとパキスタンのユーザーは、インド政府が前年に購入した高価な航空機や警備要員を批判し、女の子たちへの支援が不足していることを指摘した（図7参照）。

図7. 最もリツイートされたネガティブなセンチメントの投稿

キーワードとその背後にある物語

Meltwaterでのセンチメントごとのキーワード分析を通じて、気候変動の文脈での女の子やユース女性に関するいくつかの異なる物語が浮かび上がることが確認された（図8参照）。この地域のソーシャルメディアユーザーは、女の子やユース女性の脆弱性に気づき、それに対する認識を高める一方で、彼女たちが現代社会における変革の担い手を果たしていることも評価している。

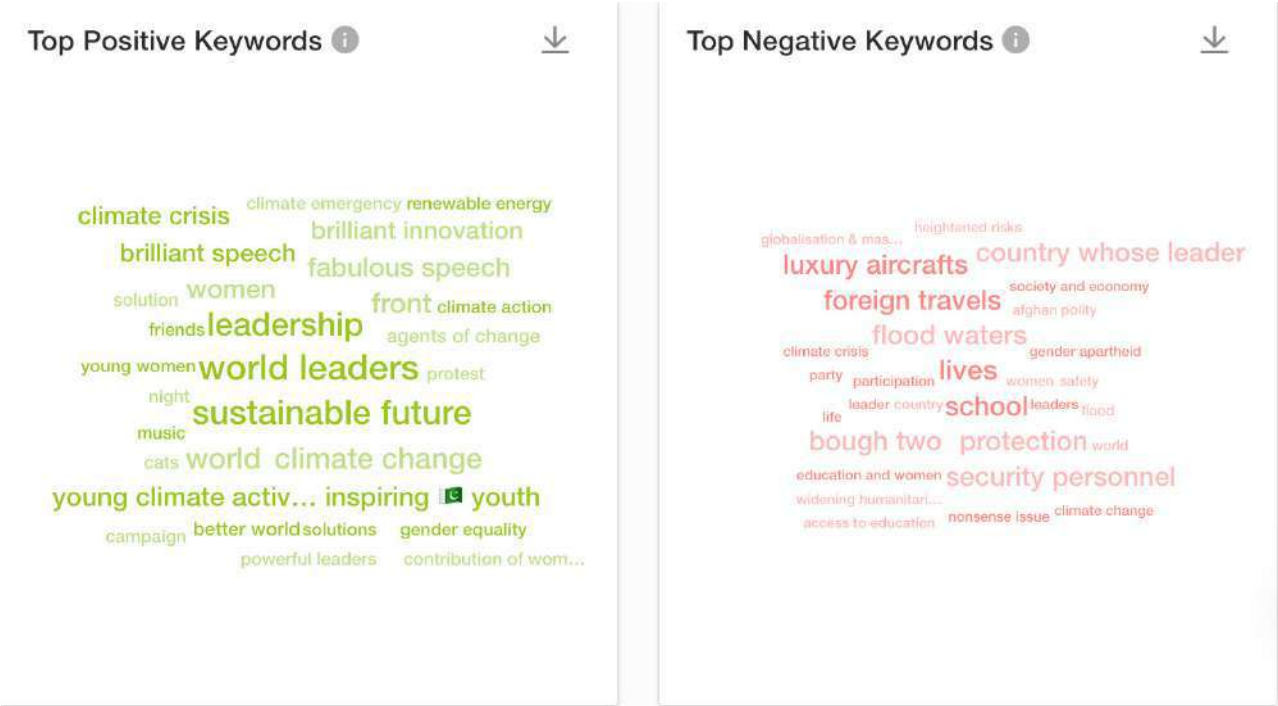


図8. センチメント分析による上位キーワード

肯定的な投稿では、ユースやユース女性を「持続可能な未来」や「より良い世界」のリーダーや変革の担い手として称賛している。彼女たちの「素晴らしい」スピーチや、様々なキャンペーンや抗議行動の組織、世界の指導者たちへの責任追及、そして気候危機への対応だけでなく、ジェンダー平等の推進における取り組みも強調している。

一方、否定的な投稿においては、ユース女性のサポーターたちを犠牲者と位置づけている。また、女の子やユース女性が、気候変動、人道危機の増大、増加するリスク、安全や教育へのアクセスの問題、そしてジェンダーに基づく不平等の影響を受けやすい存在として描写している。

前述の内容を考慮すると、否定的なキーワードの中には、インドの指導者たちが豪華な航空機の購入を優先し、女の子の脆弱性を軽減するための支援を犠牲にしたことへの批判が含まれている。このような背景を持ちながら、一部の人々は、ユース女性活動家たちを、学業を疎かにして「取るに足りない」問題を提起し、自らの教育の機会を棒に振っている者として見ているようだ。

例えば、COP26の期間中、女の子やユース女性に関する言及がピークに達した際、彼女たちの活動や立場に対して、肯定的な視点と否定的な視点の両方が投稿されていた。彼女たちを変革のリーダーとして称える意見もある一方で、彼女たちが経験不足であるとする否定的な意見や疑念も見受けられた（図9，10，11参照）。

図9，10，11. COP26がピークを迎えた期間（2021年10月25日～11月12日）のtwitter上での言及トップ3位の投稿（出典：Meltwater）

4.2. ソーシャルメディアを活用した提唱活動

ソーシャルメディアは、ユース女性活動家を取り上げるだけでなく、彼女たちが積極的に利用しているツールでもある。多くの女の子やユース女性が、コミュニティを超えて人びとや他の活動家と連絡を取り合い、協力する手段としてソーシャルメディアを活用している。しかし、オンラインのつながりが対面のものに取って代わることはないと多くの人が感じている。さらに、ソーシャルメディアの利用には、濫用のリスクやサイバー攻撃などの可能性が伴う。このセクションでは、ソーシャルメディアを提唱活動に活用する際のメリット、デメリット、そしてリスクについて詳述する。

ソーシャルメディアは、多くの女の子とユース女性にとって、提唱活動のツールとして非常に効果的なツールとなっている。調査に参加した回答者の91%が、ソーシャルメディアを活動やアドボカシーに利用しており、そのうち54%がそれを「非常に効果的」だと感じている。コミュニケーションの手段としての効果を評価した結果、対面でイベントや集会が最も評価され、次にソーシャルメディア、オフラインメディア、伝統的なメディアの順となった。

ソーシャルメディアの主な用途は啓発であり、政策提言の活動はそれほど一般的ではない。調査回答者が最も利用しているプラットフォームはFacebook、続いてInstagram、WhatsAppだった。

メリット

「Instagram、Facebook、TikTokを使っています。…。様々なアクティビティを投稿しています。大学が家からとても近いので、毎日歩いて通っています。車は持っていないので、いつも公共交通機関を利用しています。…。これをソーシャルメディアに投稿し、これが気候変動への影響を軽減する小さな一歩だと伝えています。いつも、#noplasticbag、#krisisiklim、#selamatkanbumiなどのハッシュタグを使って、友人にも参加や他の人にも参加を呼びかけています。特にTikTokでは、日常のエコアクションをビデオやブログ形式でシェアしています。例えば、朝起きた際の電気の消し忘れを避けたり、コンセントを抜くこと、家を出る際の電気を消した方など、日々の生活におけるエコな活動を伝えています。」

ID-G2

ソーシャルメディアは、活動家が自分のチームだけでなく、地域や世界中の仲間とも繋がるための重要なツールとなっている。特に、若いリーダーたちは、提唱活動や他の仕事との両立が求められる中、オンラインでの活動が非常に便利で時間も効率的に使える。ソーシャルメディアやオンラインのプラットフォームは、特にCOVID-19のパンデミックで海外旅行ができなくなった際、海外の活動家たちとのつながりを容易にしてくれた（ID-G7）。

効果的な提唱活動のためには、多くの人びとに迅速にリーチすることが必要で、その点でソーシャルメディアは非常に有益である（ID-G7）。さらに、ソーシャルメディアを使えば、地域コミュニティに簡単にアクセスし、デモや請願、その他の活動への参加を呼びかけることもできる（SI-KII3）。ユースのグループは、ソーシャルメディア上の会話が当局によって監視されているため、政府の注目を集めることも可能である（SI-KII1）。

ソーシャルメディアは、新たな形の提唱活動や関与を推進するツールともなっている。公共交通機関を利用することや、使わない電化製品の電源を切るといった日常の行動についてのメッセージを定期的に共有することで、ユーザーは、日常の行動を通じて提唱活動を補完することができる（NP-G2、NP-G5）。

このようなオンラインチャンネルでは、活動家は一般の人びとからの注目を大いに集めることができ、その結果、多くのユースが意欲を持ち、力を結集するようになっている（Marris、2019年）。さらに、ソーシャルメディアは、気候変動活動が政治的側面を持つとして伝統的なメディアで公平に報道されない、もしくは取り上げられない場合、ユース活動家にとってアクセスしやすいプラットフォームとなる可能性がある（Dickie、2021年）。

ソーシャルメディアは、女の子やユース女性が広範囲にメッセージを伝えるための手段として使えるだけでなく、同時に、彼女たちの情報取得や学びの場としても機能している。多くの参加者は、最新の気候科学や政策情報の取得という教育的目的でソーシャルメディアやオンラインチャンネルを利用している。この調査でインタビューを受けたインドネシアの活動家は、IPCC報告書は気候変動に関する重要な情報源だとしつつ、その内容はしばしば高度で専門的で、長文であり、理解しづらいとの点を指摘した。そのため、彼女は科学や政策に関する内容をより深く理解するために、報告書の簡略化された要約を掲載しているソーシャルメディアのアカウントを参照にしている（ID-G7）。

ボックス1. オンラインとオフラインの比較

オフラインでの提唱活動に比べ、オンラインでの活動は頻繁が高く、1日に何度も行われることが多い。オンライン上では、女の子やユース女性は、個人のアカウントやグループのアカウントを使い、自分のグループやネットワーク内の他の人びとの投稿した情報を共有する。ソーシャルメディアの性質上、情報の共有や再共有が簡単であるため、自らのメッセージの拡散も容易であり、また、誰もがそのネットワークを活用することができる。同時に、オンラインチャネルは、直接会うことが難しい人々やコミュニティを含め、より幅広い層へのメッセージ配信を可能にする。対面での提唱活動は、対象を特定しやすくなる。オフラインでの活動では、自治体とのミーティングの設定や、学校での教育イベントの開催など、特定の利害関係者に特化したアクションを取ることが可能である。このような対面のイベントは、オンライン活動のように頻繁かつ即座に開催することは難しく、地域コミュニティに向けたものになる傾向がある。

表1. オンラインとオフラインの提唱活動

オンライン	*オフライン*
ソーシャルメディアキャンペーン	抗議とストライキ
遠隔イベント（ワークショップ、ウェビナー、研修、政策対話など）	対面イベント（ワークショップ、ウェビナー、研修、政策対話など）
ビジュアルコンテンツの発信（ビデオ、写真、アニメーション、YouTube/TikTokなど）	ビジュアルコンテンツの展示・上映（ポスター、写真、ビデオなど）
ブログ	演劇、ダンス、その他パフォーマンスアート
論説と新聞記事	戸別聞き取り調査
ポッドキャスト	ラジオ

デメリット

ソーシャルメディアは、活動家とその対象者の両方に対し、誰もが等しくアクセスできるわけではない。アクセスにはインターネット接続とモバイル機器が必要である。ソーシャルメディアにアクセスできない人びとや、ソーシャルメディアよりもラジオや伝統的なメディアに依存しているコミュニティも存在する（SI-KII1、SI-KII3）。

ソーシャルメディアを利用していても、調査参加者は、対面での活動は簡単には置き換えられないと感じている。ソロモン諸島のある若手リーダーは、オンラインでのリーチは直接会うよりも簡単だと認識しつつ、オフラインでの活動の方が他の利害関係者と個人的なつながりを持つことができ、それゆえにより興味深く価値があると答えた（SI-G2）。同様に、インドネシアの活動家は、オフラインの会議はより豊かな経験となると指摘し、「相手と直接話したり、相手の声を直接聞いたり、アイコンタクトをとったりすることには特別な価値があります。ソーシャルメディアやインターネットが活動を大いに支えてきたとはいえ、私たちはオフラインのやり方を捨て去ることはできません」と語った（IN-G7）。

さらに、ソーシャルメディアを通じて、提唱者や活動家は、対面で群衆に話す際のように、自身のメッセージが適切な聴衆に確実に届いたかを実際に知ることができない。ソロモン諸島の活動家は、「対面では、自分のメッセージが相手に届いていることを確認できますが、ソーシャルメディアではその確信を持つことは難しい」と語った（SI-G5）。

リスク

ソーシャルメディアでは、一度に何千人ものユーザーにリーチする能力の代償が伴う。その課題のひとつは、批判や否定的なコメントであり、これらは無関係な者や運動に疑問を抱く人、さらには活動家や提唱者である女の子やユース女性をサポートしない親しい友人や親戚からも寄せられることがある（ID-G3、ID-G7）。ユース女性活動家の活動や意図を十分に理解せず、誤解や批判をする人もいる（ID-G1、NP-G2）。

もうひとつの代償は、否定的な情報の過多で、これは精神的な幸福に影響を及ぼす可能性がある。ソーシャルリスニングの結果からも、否定的な感情はソーシャルメディア上でより多くの関与を引き付けていることが伺える。

「私たちは24時間365日スマートフォンを常に手元に持っていて、…、目の前に流れる気候に関する悪いニュースの量には圧倒されてしまいます。それが活動の一環である以上、避けることはできません。多くの活動家たちは、自らの活動能力を妨げずにソーシャルメディアを有効に活用するバランスを見つける必要があります。」

ID-G7

しかしながら、女の子やユース女性たちは、ソーシャルメディアの陰の側面にどう対処するかを学んでいる。インタビューの回答者たちは、批判から学ぶものを見つけ、自身の活動に対しての信念を保ち続ける重要性を強調していた。

さらに、ソーシャルメディアの利用に関連するセキュリティのリスクも存在する。インタビュー回答者によると、サイバーセキュリティへの意識の欠如は、ユース女性活動家がハッキングや脅迫の対象となるリスクを高めている。ソーシャルメディアは悪用される可能性もあり、不適切や下品なコンテンツが共有・拡散される場合もある（NP-G5）。また、ソーシャルメディアは真実と偽情報の混同を簡単に拡大するため、フェイクニュースのリスクや危険性は見過ごせない（NP-KII2）。

V.

行動から アドボカシーへ：

気候正義を唱えるユース女性たち

オンライン空間だけでなくリアル空間でも、女の子やユース女性は自らのコミュニティだけでなく、その外部で気候変動に対する運動を主導している。本セクションでは、個人的、地域的、集団的、そして国際的なレベルで、でユース女性が気候変動運動において、どのようにその存在を際立たせているかについて紹介する。気候変動対策と社会正義のつながりを中心に、女の子やユース女性が「行動し、共有し、つながり、要求する」という方法を通じて、気候変動運動をどのようにリードしているかの分析に続く。

私たちの分析では、女の子やユース女性が制約の多い市民スペースをどのように巧みに活用し、気候変動だけでなく社会の弱者や疎外されたグループのための擁護を展開している独自の方法を示している。また、彼女たちの提唱活動は多岐にわたることがわかる、それは、自身のコミュニティの変革から他者の参加促進、さらには政策や制度的変化の要求まで、である。ユース女性活動家の活動は多面的で、日常的なものから政治的なものまで包括しており、しばしばメディアが描く彼女たちの英雄的なイメージに反旗を翻している（Taft、2020年）。

5.1.　気候変動と社会正義の交差

5.2.　手法と戦略

5.1. 気候変動と社会正義の交差

女の子やユース女性は、気候変動対策と社会正義の結びつきの中で積極的に提唱活動を展開している。特定の地域の女の子とユース女性は、不均等に疎外されたグループに気候変動による影響があることに焦点を当て、環境問題に立ち向かう声を上げ、具体的な解決策を提案している。彼女たちの提唱活動の核となるのは、世代間の正義とジェンダー平等である。

ユースによる急速に拡大するこの運動は、気候変動に関する議論を、社会正義を含めたものへと方向転換させている（Curnow、2019年; Thew et al.、2020年）。世界中で、ユースは、制度的な人種差別、偏見、メンタルヘルスの問題といった社会正義に関連する問題や、これらと結びつく気候変動の問題への対応を求める動きを強化している（Huang、Bent、2022年）。オンラインを通じて、ユース活動家は、異なる社会経済的・政治的背景を持つ人びとを気候正義のために一つに結びつけている（Huang、Bent、2022年）。たとえば、太平洋地域のマオリの気候変動活動家は、先住民が直面する制度的な抑圧を背景に、気候変動対策や政策提唱活動と並行して、人種差別撤廃や脱植民地化を訴えている（Ritchie、2021年）。

ユース女性活動家は、気候正義に向き合いつつ、弱者が誰であり、どのような力の不均衡が気候政策の場での発言権を形作しているのかを強調している。例として、ソロモン諸島の活動家は、他の多くの太平洋の島国と同様に、自国の気候変動に対する責任が最も少ないにもかかわらず受ける損失と損害について訴えている。彼女は、通常あまり注目されない国々の声が国際社会で認知され、サポートされるべきだと主張している（Habu、2020年）。フィリピンの活動家は、気候変動の影響を最も強く受けるのは貧困層だと指摘し、一方で、気候変動を否定する人びとは「オフィスや冷房の効いた快適な家での生活では、その影響を実感することは難しい」と述べている（Jha、2019年）。Klima Action Malaysiaというユース主導の気候変動運動は、森林保護と先住民の権利を主張する先住民コミュニティと協力しながら、ユース女性によって設立された。この団体は、提唱活動を脱植民地化の方向へ導き、現在、グローバルノースの視点によって形成されているマレーシアの気候変動に関する議論を変えることを目指している。

インドネシア、ネパール、ソロモン諸島の調査結果によると、女の子やユース女性が気候変動に関わる際、最も重視しているのはジェンダー平等、社会正義、人権であり、それに続いて、気候変動啓発や対策が挙げられている。さらに、気候変動への適応、持続可能な開発、災害リスク軽減、気候・災害に関する正義、損失と損害なども重視している点として挙げられる（図13参照）。

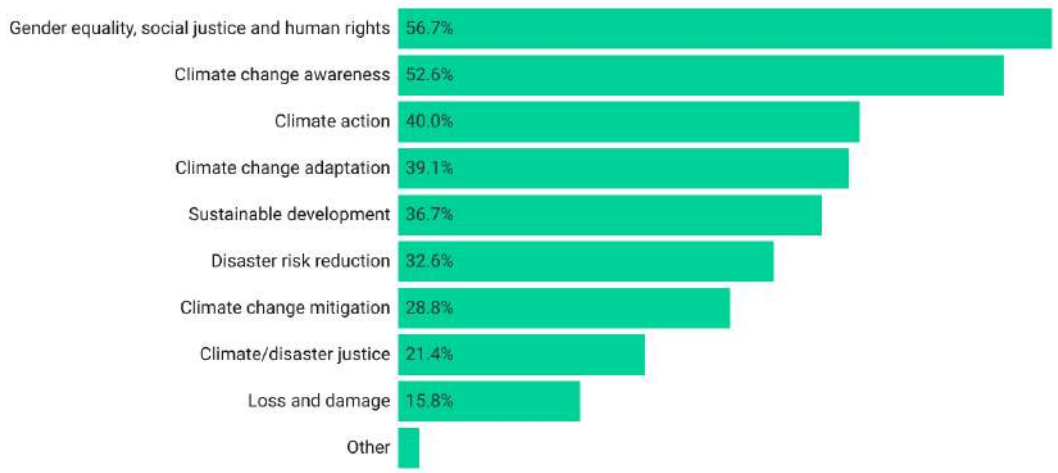


図13. 提唱活動の主要な焦点に関する調査回答（回答者数：215）

多くの女の子やユース女性が取り組む気候変動に関する活動は、世代間およびジェンダーの正義を中心に据えている。調査では「誰と一緒に、または誰のために提唱活動を行っているか？」という質問に対し、多くの回答者が「子どもやユース」を選択し、次いで「女性や女の子」、「貧困層」と答えている。多くのユース女性活動家は、啓蒙活動や技術訓練、実際の活動を通じて、次世代を変革の担い手として力強くサポートしている。

私たちがインタビューしたユース女性活動家たちは、疎外感を抱くコミュニティと連携し、彼らの声や意見を拡散させている。彼女たちは障害者、人種・民族的マイノリティ、先住民、高齢者、LGBTQ+の人々、移民、難民、亡命希望者との協力を進めている（図14参照）。さらに、彼女たちは人身取引や早すぎる結婚（NPG1）、公衆衛生（ID-G7）、ジェンダー不平等（SI-G1、G2）、災害対策（NP-G4）、先住民の土地権利といった社会課題と、それが気候変動とどのように関連しているのかを理解し、これに取り組んでいる。

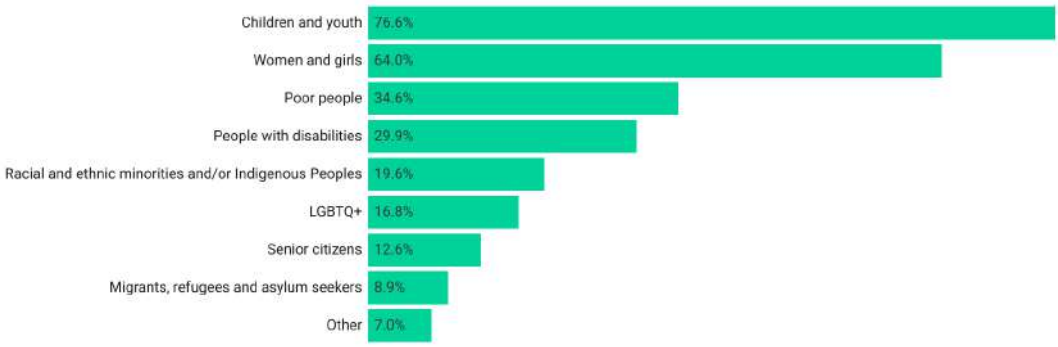


図14.提唱活動の対象となる、あるいは共に活動する社会的弱者集団に関する調査回答 (回答者数：214)

インドネシアのスポットライトストーリー：先住民のアイデンティティ、活動、そしてメンタルヘルス

「自然と文化、これらは私たちが大切に守るべき最も貴重なものだと教えられて育ちました」と、インドネシアの気候活動家Setia（仮名）は言う。ダヤック族の先住民である彼女は、気候危機に立ち向かい、自らのコミュニティに変化をもたらすことを彼女の使命としている。「活動家としての役割は、私の文化とアイデンティティを守ることにあります」と彼女は続ける。

彼女の両親は環境関連の仕事に従事しており、そのため気候変動は彼女が育った家庭の日常会話にあった。Setiaは7歳の時に、初めて母親と川の清掃活動に参加した。高校生の頃には、彼女は本格的に環境活動に取り組みはじめた。現在、彼女はインドネシアのユースが気候変動運動に積極的に参加できるようサポートするプログラムを推進している。同時に、環境や先住民の土地を守りつつ、地域やコミュニティの人びとが医療を受けられるような取り組みも進めている。彼女は、保健分野での学位取得を目指して勉強中である。

Setiaにとって、気候変動運動への参加は、先住民としてのルーツを深く理解したいという強い願望と絡み合っていた。ダヤック族の文化やライフスタイルは自然との共生を重視しており、それはSetiaの行動の強い原動力となっている。彼女のコミュニティ内では、先住民の女性たちを中心に、伝統的な知識が実際の行動として実践されている。

一方で、Setiaは自身の気候変動運動 への貢献とその成果を実感しつつ、気候変動の深刻で「複雑」な問題性や、多くの大人たちの関心のなさや反応の薄さが、活動家たちの疲れや燃え尽きを招く原因になっていると感じている。「私たちの生活の大部分が運動に費やされている中、時々運動から離れ、息抜きする時間や精神的なケアを取り入れるのは、ユースにとって難しいことなのです」とSetiaは言う。そして、彼女はユース活動家としての自身の経験を通じて、「運動には確かに希望があるものの、それと同時に不安や燃え尽き、圧倒される感情が私たちの行動力を妨げている」と感じている。

医学的知識を持つSetiaは、不安が身体や心の健康に及ぼす影響を深く理解している。彼女は、インドネシアではまだメンタルヘルスについてオープンに語ることが難しいと感じており、その結果、ユース活動家たちがこのような話題を共有する場が少ないと認識している。彼女は、メンタルヘルスと気候に関する不安に対する認識を高め、ユースが自らの経験を共有するための公の場やサービス、さらには家族やコミュニティからのサポートネットワークを設立することの重要性を強調している。

出典：インタビュー

5.2. 手法と戦略

オンラインやオフラインの場を問わず、ユース女性リーダーたちは様々な面で変化を主導している。彼女たちはさまざまなステークホルダーと連携し、政策の見直しや説明責任の確保を求め、実際の変革を推進しつつ、情報の共有や啓発活動を行いながら、自身のコミュニティやそれを超えてリーダーシップを発揮している。

市民活動が制限され、参加するための政策的な取り組みが不十分であるにもかかわらず、女の子とユース女性たちは多岐にわたる方法で変革に取り組んでいる。調査回答者の約半数は、個人として活動しており、残りの半数は何らかの団体やグループに所属している。彼女たちの活動内容や役割には、団体のリーダーシップ、資金調達、イベント企画、人事、戦略の策定、ピア・ラーニング（仲間同士の学び合い）、成果の監視と評価などが含まれる。特にコミュニケーションと提唱活動が多く、回答者の約23.81%がこの役割を担っている。また、ユース向けの組織のコーディネーター（例：ID-G7）や女の子ネットワークの役員（NP-G4）として活動する者や、起業（SI-G3）や芸術（NP-G6、SI-G2）を通じて変革を促進する者もいる。

女の子やユース女性の提唱活動の主な対象は、地域や国、地方の政策策定者を含む政府関係者で、これが全体の33%を占めている。次に多いのは、仲間や他のユース（23%）、そして自身のコミュニティ（17%）となっている。さらに、市民社会の関係者、民間セクターの関係者、メディアも対象として取り上げられている（図15参照）。

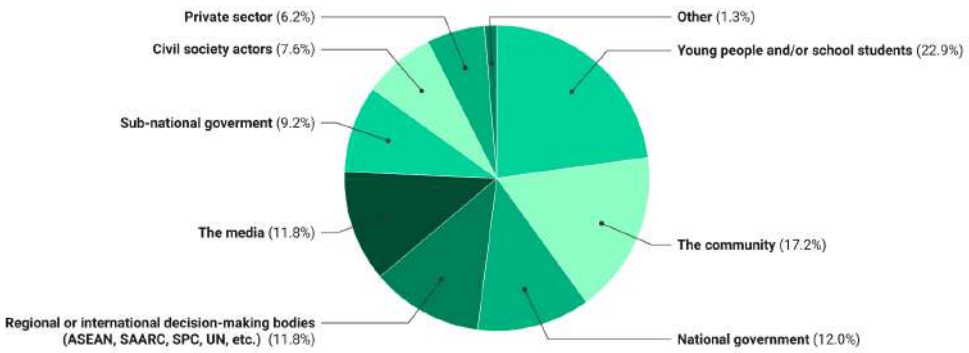


図15. 女の子とユース女性の提唱活動の主な対象（累積頻度、回答者数:617）

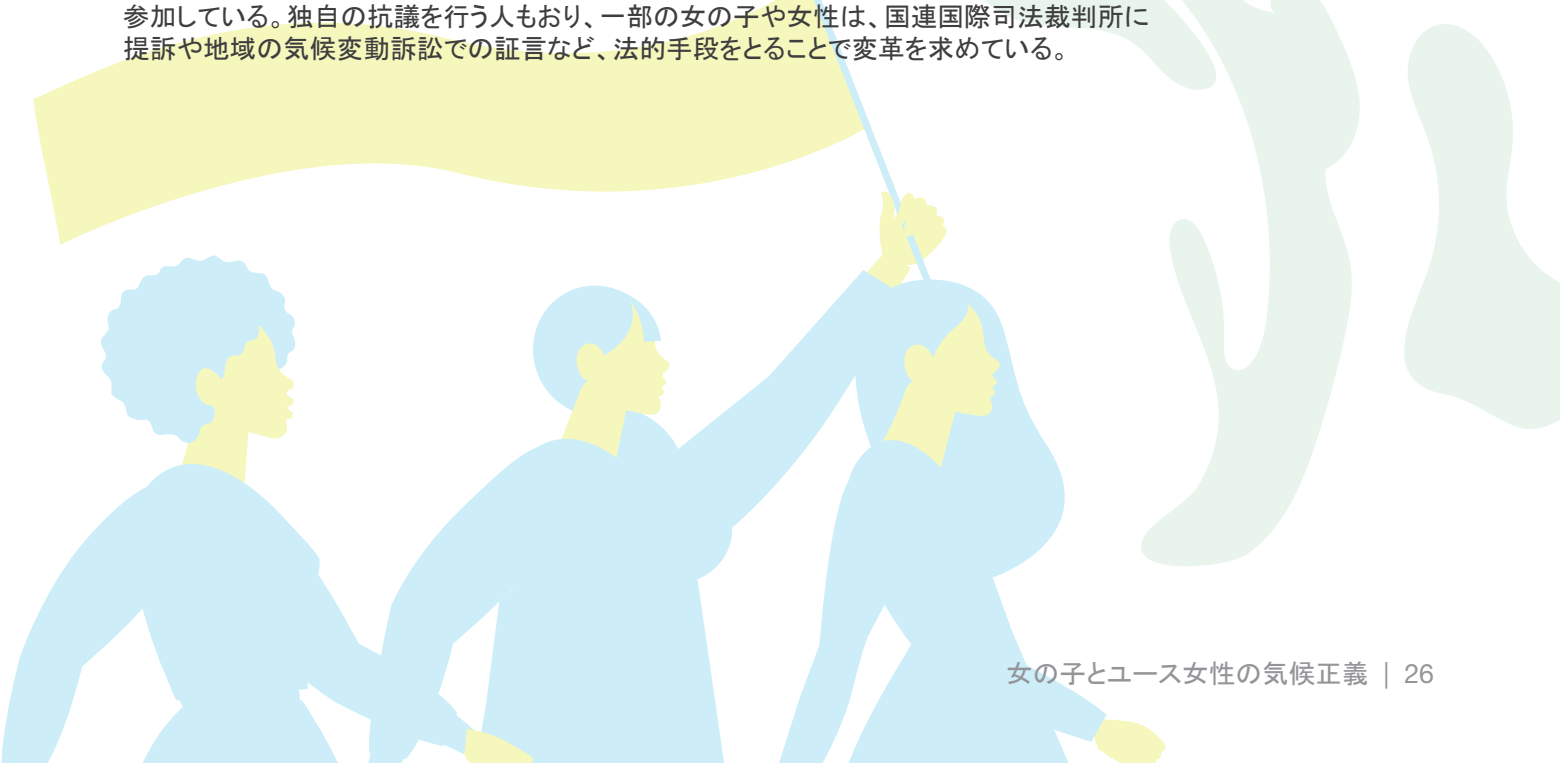
行動で導く: 実際に行動を起こすことは、女の子やユース女性のリーダーシップにおいて不可欠な要素である。あるネパールの著名な活動家は、インタビューで次のように自身の経験を振り返った。「COP25、COP26、SB56への参加を通じて気づいたのは、真の変革はこれらの排他的な会議よりも、コミュニティレベルで実際に行動を起こしている人びとから生まれるということです」（Sarrafoglu、2022年）。

ユース女性活動家は具体的な取り組みを進めており、家庭や学校、コミュニティでの植樹、廃棄物処理、環境浄化、森林再生プロジェクトなどの活動を展開している。これらの取り組みは、環境や気候危機への対応だけでなく、啓発や教育の面でも価値をもたらしている。

知識の共有で導く: 知識や情報の共有は、ユース女性活動家たちが持続的に活動を続けるための鍵である。彼女たちは、気候変動や気候正義への意識を高めるために、創意工夫とデジタル手法を駆使して取り組みを展開している。　これには、ポスター制作や戸別訪問などの伝統的なキャンペーン手法だけでなく、演劇、ドラマ、映画、音楽も取り入れている。ソーシャルメディアやデジタルプラットフォームを利用して、ウェビナーやワークショップを開催し、教育的な内容を共有し、オフラインの活動と相補的に行っている。技術や科学的な情報も、ソーシャルメディアの投稿や画像、ライブストリーミング、動画などを通じて、より利用しやすい形式で伝えられることが多い。

つながりを通じて導く: ユース女性活動家は、政府やコミュニティのリーダーや住民、学校、市民団体など、多様な関係者との対話を通じて、目指す変革に向けた共同の道筋を探っている。これには、非公式の対話や協力だけでなく、正式な要請や提案、プロジェクトも含まれる。多くのユース女性活動家は、複数の団体に所属しており、そこでの経験を通じて、多様な問題領域の専門家や同じ目的を持つ仲間とのネットワークを築いている。

要求を通じて導く: ユース女性活動家は、政策変更や説明責任を求め、その声を力強く上げている。抗議やストライキを組織し参加する中で、「Fridays for Future」のような国際的な運動を自身の国や地域レベルで実践したり、先住民や他の社会的弱者が主導する気候変動運動に参加している。独自の抗議を行う人もおり、一部の女の子や女性は、国連国際司法裁判所に提訴や地域の気候変動訴訟での証言など、法的手段をとることで変革を求めている。



VI.

ユース女性活動家：

一人一人の物語と結束の力

調査者たちは、ユース活動家にとって、その年齢と世代が彼らの変化を促す力の源泉であることを明らかにしている（Benigno、2021年; Bent、2019年）。家族、コミュニティ、そして社会における彼らの独特な位置づけは、彼らが疎外されたコミュニティを含むさまざまな層の利害関係者と連携し、政策や行動に変革をもたらす存在となることを可能にしている（Cocco-Klein、Mauger, 2018年）。ユースとして、彼らは制度や政治的動機から自由で、「権力に対して真実を伝える」ことで、大人たちに対して道徳的な権威を行使する（Marris、2019年）。これが、女の子やユース女性が意見を発信し、懸念を表明する新しい場を生み出す要因となっている。

私たちの調査は、女の子やユース女性が気候変動運動に多様な形態や方法で貢献しているだけでなく、また彼女たち独自が持つ独自の力を裏付けている。彼女たちは、気候変動の影響に関する個人的な経験や記憶に触発され、それを原動力として活動を推進している。ユース女性活動家は、他の関係者からの支援を受けつつも、困難な状況に果敢に挑戦し、それを忍耐強く乗り越えている。

6.1. 変化を求める個々の希望

6.2. 主体性とリーダーシップ

6.3. 忍耐力と持続性

6.4. 多様な利害関係者との提携と支援

6.1. 変化を求める個々の希望

ユースたちは、気候科学とその緊急性を伝えることで、彼らの個人的な体験に基づいた自主的で真実の声を持ち、新たな議論の場を切り開いている（Eide、Kunelius、2021年）。本調査でインタビューを受けた女の子やユース女性は、気候危機や環境問題による女の子や女性への不平等な影響を直接体感した経験が、気候変動運動に参加するきっかけになったと語っている。

調査結果からも、女の子やユース女性が気候変動運動に参加する主な理由は、気候変動が自身の将来に及ぼす影響への懸念や、自らのコミュニティが受ける気候変動や災害の影響への懸念が明らかになっている（図16参照）。これは、特定の地域や人びと、価値と連動した変革への願望を反映している。このような経験は、女の子やユース女性が自らのコミュニティで変化を促進する原動力となっている。

調査対象者の85%が、女の子または女性であることが、気候変動に関する運動や気候正義を支持する動機になっていると回答している。例えば、あるインドネシアの活動家は、小学生の頃、彼女の家族が最も近い水源から3キロも離れた場所に住んでいたと述べていた。水の供給が不足していたため、女の子たちは水を汲み歩いて行かなければならなかったが、男の子たちはその必要がなかった。気候変動の影響で水利用の状況が変化する中、彼女自身や他のユース女性の状況を心配し、そのことが、活動に参加する動機のひとつとなっていた（ID-G1）。

ネパールの事例として、あるユースのリーダーが、教育やメンタルヘルス、衛生や生殖に関する健康の問題において、災害が女性にもたらす負の影響について個人的な経験からアイデアを得たと述べていた（NP-G4）。一方、ソロモン諸島では、自らの故郷の島が海面上昇の影響で徐々に水沈していく様子を見てきた人身売買防止とジェンダー平等の活動家が、その経験から気候変動問題への関与を深める決意をした、と言う。

「私が環境活動家になろうと思った理由のひとつは、気候変動の影響で私や私の友人たち、とくに女性たちの生活が危険にさらされていることを感じたからです。…。私が育った場所では清潔な飲料水が不足していました。小学生の頃、友達と遊んだり勉強したりする時間は、家から2～3キロ離れた遠くの水源まで水を汲みに行くために奪われました。清潔な飲料水を得ることの苦労を経て、大人になってから気候変動やその他の問題が水不足の原因であることを学びました。…。私が経験したような困難を他の人びとが経験しないように、どうしたら助けられるかを真剣に考えるようになりました。…。」

ID-G1

最近私は故郷に戻り、2カ月の間に、毎日のように海面上昇が私たちの島を蝕む様子を目の当たりにしました。もともと小さかった私たちの島がさらに小さくなっているのを見て、本当に衝撃を受けています。島の住民たちの間では気候変動についてほとんど話題にしないので、私は演劇や音楽を通じてその問題を提起し、ユースがこの問題についてもっと認識を高め、議論することを促したいと思っています」。

SI-G2

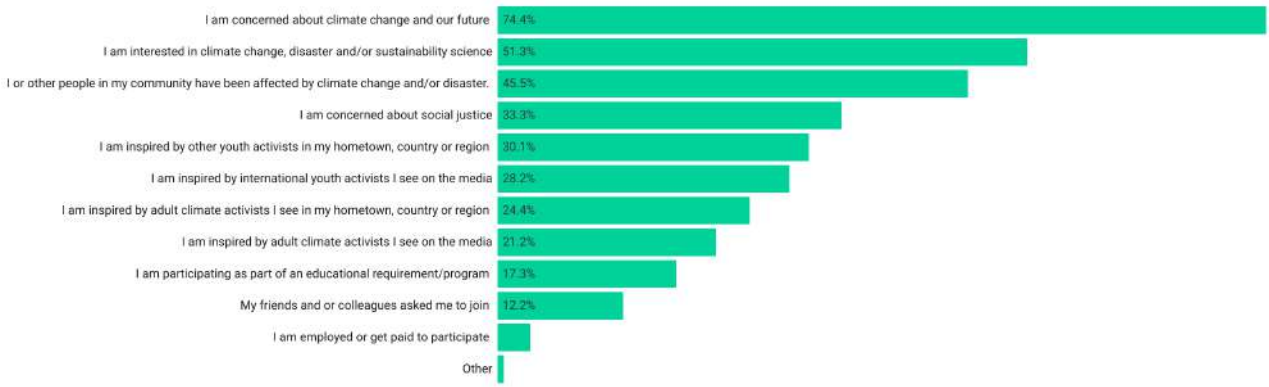


図16. 調査回答者における気候変動運動参加の動機（回答者数:156)

6.2. 主体性とリーダーシップ

女の子やユース女性は、気候危機への対応において前線で変化を主導している。彼女たちは自身が関わっている組織やグループにおいて、意思決定の過程での積極的なリーダーシップを取り、政府関係者や大人たちへの影響力も増している。

「運動の中心的なリーダーは誰か」という質問に、ユース女性活動家である調査回答者の49%が、女の子やユース女性であると回答した（図17参照）。さらに、62%の回答者が、グループ内の意思決定に関与し、積極的な役割を担っていると認識している（図18参照）。

ユース女性活動家は、自らの所属するグループの外でも、その主体性をしっかりと発揮している。例として、インドネシアのある女の子がコミュニティの廃棄物処理問題を調査し、それが環境や気候変動にどう影響しているかを研修したケースがある（下記参照）。彼女は改善案としての提案書を地域の環境事務所に提出し、好意的な反応が得られた（ID-G3）。ネパールでも同様に、女の子やユース女性が地域の問題を提起し、解決策を自治体へ提案した結果、肯定的なフィードバックが得られた事例が、インタビューにおいても取り上げられている（NP-G1、NP-G2）。

「現在、私たちが推進している主要なプログラムが2つあります。一つはSekolah Lestari Lingkungan（環境的に持続可能な学校）、もうひとつはBengkel Sampah（ゴミ置き場）です。…。私は学位を取得した後、地域社会への奉仕を使命と感じました。…。私の住む地域には、気候変動に対応するためできることがたくさんあります。私の動機は、故郷のずさんな状況でした。大量のゴミが焼却され、2019年以降、このまま焼却され続けてはならないと地域の環境局から警告が出ていることを知りました。…。そこで、私は地域の中で気候変動や環境問題への対策を模索することを決意しました。

…、Camat（小地区）や州政府などの地方政府からのサポートを受けています。…、先日、私たちがイベントを開催した際には、Camatからの資金的なサポートを受けました。また、地方の予算や将来的な取り組みに関するう公式の会議にも招かれました。地域の発展は環境や気候変動とは切り離せないテーマなので、その場では私たちが環境に関連した将来の取り組みについて意見を述べることが期待されていました。」

ID-G3

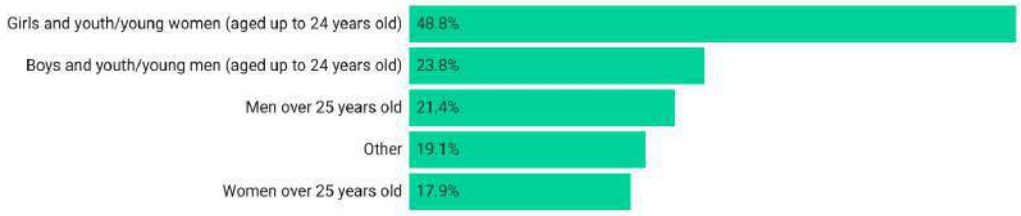


図17. 調査回答者が関与しているグループや運動のリーダー（n=110）

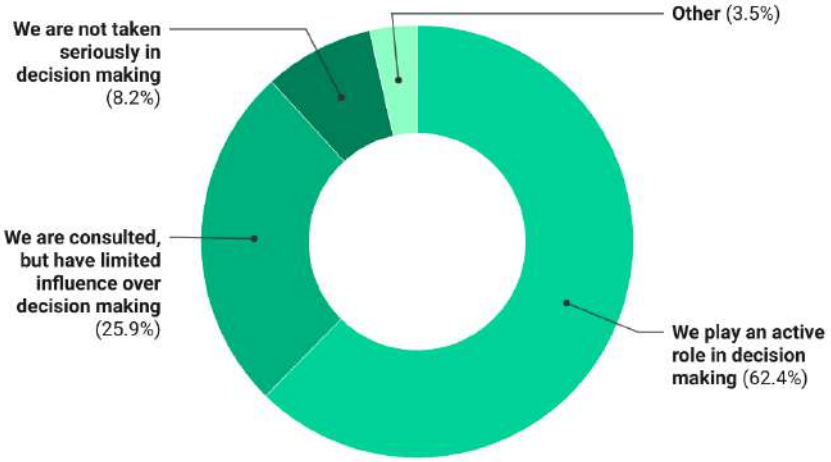


図18. 調査回答者の意思決定への関与（回答者数：85）

6.3. 忍耐力と持続性

気候変動の運動に参加し、継続的に活動し、結果を収める女の子やユース女性は、特に困難な状況や自らの活動や存在に対する疑問や懐疑に直面した際、高い忍耐力が求められると感じている。インタビューを受けたユース女性活動家たちは、持続的に取り組み続けることの重要性を強調し、計画を再評価し、適応しながら行動を続けることが大切であると述べている。

気候変動への認識を広めたり、人びとや意思決定者に変化を求めることは、時間と労力がかかる。一部の人びとは、女の子やユース女性が運動で果たす役割やその正当性に疑問を持つこともある。

しかしながら、困難な状況に直面しても、彼女たちは粘り強く大義を守り抜く。一貫して変化を訴え続けることで人びとへの説得や、努力の成果を通じて友人や家族からのサポートを得ることなど、彼女たちは決してあきらめない。批判や疑念を受けた際も、そこから学びを得て、自分自身を改善し、前進していくという強い意志を持っている（ID-G2、NP-G2、NP-G4、SI-G2）。

「多くの人は最初から私たちの言うことを真剣に受け止めてはくれません。しかし、メッセージが伝わるまで、粘り強く提唱活動を続け、メッセージを繰り返して伝える必要があります。」

NP-G2

「私の行動や言葉、織りなすものすべてが万人に受け入れられるわけではありません。しかし、その評価を受け入れ、次はもっとうまくできるようにと学びを得ています。」

ID-G2

忍耐力とは、提唱活動の多様な手法を探求し、それらを活用する創造性と柔軟性も含まれる。あるユース活動家は、コミュニティの気候変動への理解が初めは浅い場合、変革を進めるのが難しいと感じ、気候変動に関するメッセージを他のイベントや講演会で取り入れ、理解を深めるための段階的なアプローチを採用していると述べている（ID-G2）。他の活動家は、キャンペーンや取り組みと並行して、個人の行動やソーシャルメディア上のコミュニケーションを活用し、どのように日常的に行動しているかを人びとに示すことの重要性を述べた。

「私は学生として、学内の組織やコミュニティへの貢献の機会を最大限に活用しています。…。様々な場での発言の機会があり、そこで気候変動の問題を取り上げることで、この話題より多くの人に知ってもらう努力をしています」。

ID-G2

6.4. 多様な利害関係者との提携と支援

ポジティブな実例はあるものの、女の子やユース女性が積極的に参加できる場はまだ限定的である。調査回答者には、市民団体、政府、コミュニティが、ユースの気候変動運動をどれだけ支援していると感じるかを、1から5の5段階で評価するよう求められた。ユース女性活動家は、市民団体から最も受け入れられていると感じており、その平均点は4.05点。次にコミュニティが3.93点、政府関係者が3.62点であった。これらの関係者が彼女たちの要求に応えてくれるかに関して、女の子とユース女性は、政府関係者は平均3.52点、市民社会関係者は3.77点と、やや低い自信を示した。

実際、多くの調査回答者（73%）は、女性リーダーや政治家と協働することでサポートを受けていると感じている。しかし、自身の地域で気候変動と正義に関与する女性リーダーや政治家を個人的に知っている人は、52%と少ない。さらに、調査回答者の約4分の3が、提唱活動に男の子や男性を巻き込む必要があると回答している。このように、ユース女性活動家の活動は、信頼できる大人の女性リーダーや、提唱活動をサポートする男の子や男性と連携することで強化することができる。

ソロモン諸島のスポットライト・ストーリー：世界的キャンペーンから地域のアクションへ

Cynthia Houniuhiは海辺で育った。彼女は子どもの頃、海に囲まれて遊び、学び、コミュニティとの絆を深め、それが現在の彼女を形作っている（Pacific Islands Students Fighting Climate Change、2019）。

多くのソロモン諸島の住民と同様、海は彼女の日常の一部である。Houniuhiは成長するにつれ、気候変動の影響で未来の世代が彼女と同じように楽しめなくなるかもしれないと感じるようになった。この気づきと社会正義に対する情熱が、環境法の法学位を取得する原動力となった。彼女は「太平洋諸島の学生が気候変動と戦う会（PISFCC）」の創設に関わり、後に会長になった。

PISFCCは、気候変動の影響から現在と将来の世代を守るために、太平洋島嶼国のユースを集め、国際司法裁判所にアドバイスを求めた。彼女の法的知識とアドボカシーのスキルを活かして、国連法廷に助言を求めることを太平洋諸島フォーラムのリーダーに呼びかけた。PISFCCのキャンペーンは、多くの人びとから賛同と支持を受け、太平洋諸島フォーラムからも前向きな反応を得た。PISFCCはまた、「World's Youth for Climate Justice」というユースが主導する国際運動の創設パートナーでもある（PISFCC、n.d.-b）。

PISFCCは国際的なキャンペーンの他にも、ユースの教育と活動を促進するさまざまな取り組みをしている。これには、写真コンテスト、アートコンテスト、教育的なプログラム、音楽ビデオ制作、現地での視察や気候変動の体験を伝えるソーシャルメディアキャンペーンなどが含まれる（PISFCC、n.d.-a）。).

出典：PISFCC、2019年

VII.

「それでも私は歩き続ける」

提唱活動の道程と課題

女の子やユース女性が気候変動運動の中で活動家やリーダーとして活動する際には、様々な要因が影響を与えている。これには、縮小する市民活動の空間、年齢やジェンダーアイデンティティにより真剣に相手にされないこと、誤解を受けること、そして学業との市民活動のバランスをとることなどの課題が挙げられる。

7.1. 幸せと安全への影響
7.2. 相手にされない現実
7.3. ジェンダー規範と不平等
7.4. 間違った描写
7.5. 市民参加とその他の優先事項のバランス

7.1. 幸せと安全への影響

市民活動の空間が制約される中で、提唱活動や活動に従事することは、女の子やユース女性を多様なリスクや危険にさらしている。これには、身体的な危険、逮捕されるリスク、精神的健康や幸福感へのマイナスの影響が含まれる。

例えば、ネパールの気候変動や人身売買、早すぎる結婚に取り組む活動家たちは、婚姻や文化的な慣習を妨害しているとして、殺人を含む暴力や酸による攻撃という深刻な脅迫を受けたことがある（NPG1）。別の例では、気候変動活動家が農民の抗議活動の情報を共有したために逮捕されたこともある（Bhattarai、2021年）。

運動や提唱活動に参加することは、常に不安や危険を伴う可能性がある。ユース女性活動家は、男性中心のグループと一緒に活動する際（ID-G7）や、夜間に一人で移動する際（NP-G1）に、不安や恐怖を感じることがあると語った。インドネシアのある活動家は、液化天然ガス基地の建設に反対する抗議活動において、先住民の森林を生活基盤とするコミュニティを支援した経験について語った（ID-G2）：

> *「最近、友人たちと一緒に、バリ島のマングローブ林に液化天然ガス基地の建設予定地に関する問題に取り組みました。もし基地がそこに建設されれば、先住民の生活は破壊され、彼らが長年守り続けてきた生態系も消滅してしまうでしょう。…。私たちは、LNG基地の建設反対の声を上げるため、コミュニティとともにデモ行動に参加しました。デモの最中、自分の行動が学業に悪影響を及ぼすのではないかとの不安が頭をよぎりました。警察が介入する可能性や、暴動に巻き込まれて逮捕されるリスク、大学への報告、そして親への連絡が行われるかもしれないと心配になりました。しかし、これらの心配がわしたちの行動の意義を損なうことはありませんでした。先住民のコミュニティとともに、彼らの権利を守るために行動することの重要性を感じていました。」*
>
> *ID-G2*

ユース活動家にとって、気候変動運動に参加は人生の重要な部分を占めるようになっている。しかし、絶えず気候変動や気候正義の課題に取り組むことは、精神的に疲弊し、気候に関する不安は彼らの中で増大するリスクとなっている（ボックス2参照）。この不安は、気候変動や災害が日常生活や将来に及ぼす影響、社会的に弱い立場の人びとが直面する不平等、大人たちが約束を果たさないことへの失望など、様々な要因から引き起こされるものである（ID-G7）。

ボックス2. 気候不安とソーシャルメディア

環境の悪化と気候変動は、将来への不安を増大させ、人びとの心の健康や幸福に影響を与える（Clayton、2020年; Crandon et al.）。この感情や心の状態を示す用語として、エコ不安、気候不安、ソラスタルジア、気候悲嘆、エコ罪悪感などがある。気候不安は、「人間が気候変動の影響をどのように認識し、それをどれだけ恐れ、心配しているか」を指す（Crandon et al.、2022年、p.123）。一方、ソラスタルジアは、環境の変化による愛着のある場所への影響とそれに伴う苦しみを表す（Albrecht、2005年; Albrecht et al.、2007年）。特にユースは、気候変動に起因する不安や心の問題のリスクは高い（Burke et al.）。

しかし、不安の中には、適応可能なものとそうでないものがある（Crandon et al.、2022年）。気候不安は、肯定的な対応、例えば気候変動の影響を和らげたり、気候変動に対応するために行動したりする一方で、状況をさらに悪化させる可能性もある。ユースの生活環境やコミュニティ、そして彼らが気候変動にどのように反応するかは、気候不安を悪化させることもあり、また緩和させることもある。家族や、学校の友人や教師、コミュニティとの関係は、ユースが感じるサポートや希望、力を得ている感覚に影響を与える。さらに、メディアの気候変動の取り扱い方やユースの文化的・精神的背景、そして自然や地域への愛着が、彼らの適応能力に影響を及ぼす（Crandon et al.、2022年）。

技術とソーシャルメディアは、この問題において重要な役割を果たしている。情報源や同じ目的を持つ活動家へのアクセスは、ユースが気候不安を乗り越える助けとなるが、過度な情報や否定的なイメージが、インターネットの利用者を既存の不安を増幅させる方向に導くこともあり、絶望や無力感を引き起こす可能性がある（Crandon et al.、2022年）。

7.2. 相手にされない現実

市民活動や気候変動運動でのユースの存在感と認知度は増している。しかし、本調査によれば、提唱活動に関与するユース、特に女の子やユース女性は、その活動がパワーの源である一方、同時に困難にもなりうる。彼女たちは社会の中でのユニークな立場から新しい視点を提供し、変化を促進する可能性がある。だが、大人たちの中には、真の変革のための取り組みをせず、表面的にのみ彼女たちと関わる者もいる。

実際に、調査回答者の4分の1以上は、自分たちが関わっているグループや運動で相談は受けているものの、実際の意思決定に対する影響力は限定的だと感じている。女の子やユース女性は多くの場面で正当に評価されず、自らを影響させる重要な意思決定に寄与する能力を持っているにも関わらず、それを発揮する機会が少ない。

その状況は、形式的な取り組みやユースウォッシング（Youth-washing）という行為によって悪化している。ユースウォッシングとは、ユースの参加や彼らの声を実質的に取り入れることなく、単に将来世代への取り組みや彼らの包摂をアピールとして示すために利用される場合を指す。実際に、一部の政治家や企業はユース主導の気候変動運動を表面的に取り入れることで、実際には実質的な変化や意味のある行動を起こさず、結果としてユースや気候変動への真の取り組みに対する利益をもたらしていないという指摘がある（Wong、2020年）。

一方、形式的な取り組みは意思決定過程で依然として見られる。例えば、ユースを政策イベントに招待してスピーチさせるものの、会場がは半分しか埋まっていなかったり、彼らの意見に対する反応が皆無だったりする（ID-G7）。ある活動家は、招待される目的が不透明であると感じており、「講演に招待された際、本当に意見を求められているのか、単なる演出の一部として招かれているのかを常に疑問に思っている」と述べている（ID-G7）。

しかし、これらの課題にも関わらず、ユースのリーダーたちは招待された場所や状況に対して批判的な視点を持ちつつ、自らの意見や提案が真摯に受け止められることを強く求めている。彼らはこのような状況をうまく乗り越え、有意義な議論や変革を促進するための機会を探している。特に、一部の活動家は、議論が単なる宣伝活動に終わらないように「カメラの後ろ」での機会を模索している。また、ユースウォッシングを奨励するような組織とは異なり、真の意味でのユースの参加を価値とする組織と提携することを重視している。

7.3. ジェンダー規範と不平等

女の子やユース女性が公共の場での参加機会を増やし、注目を浴びているが、彼女たちの活動に制限をかける障壁はいまだに存在する。多くの地域で根強く残るジェンダー規範は、女の子やユース女性が地域社会での発言や参加を制約している主要な要因となっている。彼女たちの活動の場が限られるだけでなく、リーダーや活動家になるための教育や資源、機会へのアクセスの欠如、ジェンダーに基づく偏見による地域社会からの否定的な反応など、彼女たちの影響を制約する要因が多い（ボックス3）。

メディアの取り扱いという観点からも、ユース女性活動家の描写や彼女たちのメッセージの形成に問題があることが調査で明らかにされている。女の子たちの活動家としての取り組みは、しばしば「ガールパワー（girl power）」や希望、楽観主義、ヒロイン像、無害というフレームで描写される（Taft、2020年）。主流メディアは、彼女たちの活動を純粋さ、大人への成長、能力、個人のヒロインとしての姿と関連付けることが多い（Raby、Sheppard, 2021年）。これにより、彼女たちが特別であるかのように位置づけられる場合がある（Vanner、Dugal、2020年）。

これらの見解は、公共の場での女の子の権利と存在感が増していることを示しているが、女の子や女性のリーダーシップや活動に関するこれらの描写は、集団のアクションの重要性から運動の焦点をずらし、不平等の根本的な原因から視線をそらしている（Taft、2020年; Vanner、Dugal、2020年）。メディアのこのような取り扱いは、提唱活動を個人的なものとし、参加の背景にある格差を見落とすことで、ユース女性たちを疎外している（Raby、Sheppard、2021年）。これはまた、世代間の連帯を軽視し、大人と子どもの間の権力の階層を強化する要因にもなっている（Raby、Sheppard、2021年）。

ボックス3. 女の子やユース女性の提唱活動を制限するジェンダー規範

ある回答者（ID-G1）によれば、インドネシアでは、教育や職業、食料などの機会は、男の子や男性の方が女の子や女性よりも容易にアクセスできるという。インドネシアの別の活動家が、彼女自身の経験や国際的な政策フォーラムを基にした観察を通じて、国際的な水準に比べてインドネシアのける女の子やユース女性の活動家への認識が低いことに気づいている（ID-G7）。インドネシアでは、女性は依然として二級市民扱われ、ジェンダー平等はいまだにタブー視されている。特に遠隔地のコミュニティでは、男女間の権力構造は固定化しており、変わりにくい（ID-G7）。

ネパールでは、女性の服装や言動、態度や行動は依然として厳格に制限されている。家父長的な社会では、男の子や男性は女の子やユース女性とは異なる待遇を受ける。そのため、女の子やユース女性が真剣に受け止められ、優先されることは難しい（NP-G1、NP-G2、NP-G4、NP-G6）。時には、地域の人びとは気候変動や環境保護に関する運動に懐疑的である。外での活動に関与する女の子が否定される一方で、同じ活動に関与する男の子はより注目され、より大きな影響を持つ可能性がある（NP-G6）。ネパールにおいても、政策として「平等な機会」が保証されているとはいえ、変革を起こす力を女の子やユース女性が持つためには、資産や資源への平等なアクセスを確保する努力がさらに必要である（NP-KII2）。

ソロモン諸島では、公共の場で男性がより多くの発言権と活動の場を持っているのに対し、女性は特定の課題に関する発言や活動の機会が少ないことが指摘されている（SI-KII1）。女性の居場所は主に家庭に限られる傾向があり、女の子やユース女性が森林再生のために山に登る、あるいはリサイクル品を集めるために近所を歩くといった活動は好ましくないと見られている（SI-G6、SI-G4）。また、ある関係者は、ジェンダー規範がユース女性活動家の前に立ちはだかる課題となっていることが報告されている。この関係者は、「平等ではありません。女性がリーダーの役割を担い、このような場に参加することは一般的ではありません。…。リーダーとしての役割を果たす際、女性はしばしば差別に直面します」（SI-KII2）と語る。

7.4. 誤った描写

グローバルサウスの女の子やユース女性たちは、グローバルノースに比べ、しばしば誤って描写されることがあり、その結果、彼女たちの代表性が損なわれ、権力の不均衡が強調されることがある。例えば、グローバルサウスの女の子はグローバルノースの女の子によって救われているかのように描かれることが多い。これは体系的な問題や深い歴史的背景、例えば植民地時代の遺産を無視するものである（Huang、Bent、2022年）。さらに、アジア太平洋地域の女の子やユース女性たちが、グローバルノースよりも先に活動を開始していたにも関わらず、スウェーデンで活動を始めたGreta Thunbergが世界のメディアの注目を集めるまで、彼女たちの活動は広く知られることはなかったという事例も存在する（Banerji、2020年; Okutsu年2021年）。

「インドのGreta」として知られるインドの活動家は、このような比較が各国の独特の背景や運動の意義を消し去ってしまうと指摘している。「発展途上国は気候変動に最も影響を受けやすいです。世界やメディアは、全世界の気候変動活動家に対して平等に注目すべきです」と彼女はインタビューで語った（Banerji、2020年）。

7.5. 市民参加とその他の優先事項のバランス

変革を求め、それを具体的な行動に移す過程で、ユース女性活動家たちは、自身の時間をうまく使い分けながら、提唱活動と学業やその他の日常の優先事項とのバランスを取らなければならない。これは時に妥協や取り決め、そしてスケジュールの調整を意味する。

本調査に参加した多くの回答者やインタビュー対象者は学生であり、限られた時間の中で気候変動に関する運動に自発的に参加している。放課後や週末を利用して活動を実施したり（SI-G1、SI-G2）、昼休みを利用してプロジェクトの提案やキャンペーンの策定に取り組んだりしている（ID-G2）。学業との両立の難しさはインタビューでよく取り上げられるテーマであった（ID-G1、ID-G2、ID-G7、NP-G1、NP-G5）。

> *「今まで、私はどうにかしてバランスを保とうとしてきました。でも、何か大きなことを成し遂げようとするためには、何かを犠牲にする必要があります。…。それでも、これは私の情熱で、…、少しの犠牲で大きな学びが得られ、気候危機に貢献できると感じています。」*
>
> *ID-G2*

一人のインドネシアの活動家は、活動と勉強を別々に考えないというアプローチをとっていると語った。彼女にとって、活動は勉強や日常生活の一部である。学業は活動を支援し補完するものであり、その逆もしかりだという（ID-G7）。また、家族のサポートも、この課題を乗り越えるうえで不可欠だと言う人もいる（SI-G1）。しかし、別のインタビュー対象者（NP-G5）によると、教師や親の中には、市民活動が勉強に悪影響を与える可能性があると感じ、そのために不機嫌になったり、サポートしなかったりする人もいるという。

ネパールのスポットライト・ストーリー：活動を旅として

Nima（仮名）は4歳のときに誘拐され、人身取引の犠牲となったが、救出されたという経験を持っている。彼女はこのトラウマが自分自身だけでなく、家族にも永続的な影響を与えると語っている。運命のその日に彼女が味わった恐怖と痛みは、彼女の心に深い傷を残した。その経験から、Nimaはすべての女の子が安全で力を与えられる世界を目指して闘う決意を固めた。

しかし、活動家としての彼女の道は険しいものだった。権威ある人びとに彼女の意見を述べることは常に難しく、彼女は単なる子どもとして扱われ、その意見は却下され、見過ごされた。声を上げることが難しいだけでなく、資金面での支援もほとんど得られなかった。コミュニティや権威ある人びとからは、ほとんど援助を受けることができなかった。

それでもNimaは、変化をもたらすという自らの決意を新たにした。若さが原因で真剣に受け止められないことを悟り、自身の自信とスキルを示すために公の場で話す練習やアイデアのプレゼンテーションの練習を始めた。彼女は自分のお小遣いを提唱活動のための資金として使い、戸別訪問やパフォーマンスを通じて資金を集めていった。

現在、Nimaは自分のコミュニティの中で、特にユースや女性、農民などの弱者が直面する問題や課題に対して、積極的に声を上げている。彼女は、人身売買、早すぎる結婚、性と生殖に関する健康といった問題に取り組むユース活動家である。ソーシャルメディアやオンラインのプラットフォームを通じて、彼女はこれらの重要な社会問題について伝え、意識を高めるために、詩的かつ創造的な新しい方法を模索している。

しかしながら、彼女は次のように述べている。「ソーシャルメディアは、特に女の子や女性にとって、自身の活動に対するヘイトコメントを受けるリスクがあります。同様に、フェイクニュースや誤った情報も、オンラインでもオフラインでも適切な活動を取るうえでのリスクとなっています。」

また、彼女はこれらの問題が災害や気候変動と相互に関連していることに気づくことが増えてきたという。これらの影響は、彼女自身のコミュニティ内の女の子たちの生活や幸福に直接的な影響を与え、既に存在する不平等やリスクをさらに深刻化させている。彼女はネパールの地方当局に対して、社会的弱者の問題を訴える活動をしており、災害時に人びとを支援するためのキャンペーンを展開している。

出典：インタビュー

VII. 結論

「気候正義」という言葉は私にとって美しい希望であり、この言葉を口にするたびに、気候変動の厳しい影響と日々闘う最前線の人びとが頭に浮かびます。…。私にとっての気候正義は、すべての生きとし生けるものが公平で住みやすい環境で生きる権利を享受するという単純なものです。気候変動は世代を超えた人権問題として認識されなければなりません。気候危機に立ち向かい、気候正義を実現するためには、迅速な行動が必要であり、現在のシステムを根本から変える前例のない変革を遂げなければなりません。」

（Sarrafoglu、2022年）

この調査は、アジア太平洋地域における女の子やユース女性たちが、気候変動対策の主導権を握る過程において、(a)実現要因と障壁、(b)手法、ツール、アプローチ、(c)意思決定の場への参画、という3つの重要な面を探った。文献調査、ソーシャルリスニング、オンライン調査、詳細なインタビューを組み合わせることで、本調査は、縮小する市民スペースの中で、気候変動運動の中でユース女性活動家が持つ主体性と力を明らかにした。

実現要因と障壁：調査結果からは、ソーシャルメディアやオンラインプラットフォーム、既存の政策枠組み、そして市民社会が、女の子やユース女性の気候変動への取り組みを可能にする要因として機能すると同時に、それらが障壁にもなっていることが明らかになった。一方ではソーシャルメディアやオンラインプラットフォームは彼女たちに互いや他者と容易につながる手段を提供し、現行政策は抱摂とユースのエンパワーメントを推進している。市民社会のアクターや意思決定者もユース女性活動家を支援するようになってきている。他方で、インタビューによると、彼女たちは、ネット上での悪用やデマ、政策行動の計画や実施における制約、市民スペースの縮小、そして根深いジェンダー規範や年齢差別といったリスクに直面しているという。

手法、ツール、アプローチ：アジア太平洋地域の3カ国で話を聞いたユース女性活動家たちは、個人的な動機と、幼少期に経験した気候変動の影響に突き動かされている。彼女たちの提唱活動は、ジェンダー不平等、人身取引、社会的疎外など、気候の脆弱性に影響を及ぼす社会問題に取り組んでいる。彼女たちは、社会正義を中心に据えながら、他の疎外された集団を支援し、協力している。これらの女の子やユース女性たちは、行動を起こし、知識とストーリーを共有して行動の変え、ネットワークを構築し、政策変更を求めることによってリーダーシップを発揮している。

意思決定プロセスへの参画：さらに、女の子やユース女性たちは自治体や国際的な政策フォーラムに対して実行可能な解決策を提案し、その実施を積極的に求めている。しかし、文献レビューやインタビューによると、ユースが正式な意思決定の場に参加するための体制はまだ十分に整っていない。そのため、意思決定過程で積極的な役割を果たす女の子やユース女性はまだ少数である。

全体として、本調査は女の子やユース女性が主導する気候変動提唱活動の性質を浮き彫りにした。それは、日々の小さな変化をもたらす活動や一貫したコミュニケーションから、より大きな政策変更を求めるプロジェクトの実施や組織化の努力まで多岐にわたる。また、彼女たちの活動は、個人の生活体験や動機に基づいており、年齢や性別に起因する困難や抵抗に直面しながら、アイデンティティに関する誤解や排除に対峙している。これはまた、彼女たちが市民活動や意思決定の場をどのように利用するか、学業を含むその他の優先事項をどのようにバランスさせるか、そしてソーシャルメディアやデジタル技術をどのように有効活用し、その限界や批判にどのように対処するかを学んでいる過程でもある。

IX.

提言

以下の提言は、文献の検討、アジア太平洋地域のユース女性活動家、政府機関や市民社会の関係者とのインタビューに基づいて本調査から導き出されたものである。気候変動と社会正義の分野において活動するユース女性活動家たちを支援するために、政府関係者、市民社会、そしてユース活動家自身に対して、以下の行動を推奨する。

9.1. 政府関係者向け
9.2. 市民社会アクター向け
9.3. ユース活動家向け

9.1. 政府関係者向け

地方、国家、地域レベルの政府機関、例えば東南アジア諸国連合（ASEAN）、南アジア地域協力連合（SAARC）、太平洋共同体（旧南太平洋委員会、現在もSPCとして知られている）などは、気候変動運動における女の子とユース女性の関与とリーダーシップを強化するために、以下のようにして開かれた抱摂的な空間を促進することが可能である。

» **ユースが公務や意思決定プロセスに参加するための公式な枠組みを構築し、維持する。** これには、政策の立案、実施、モニタリング、評価にユースが関与できるようにするメカニズムなどが考えられる。例えば、関連する省庁にユースの運営委員会や諮問委員会を設けるなど。これらのメカニズムは、女の子やユース女性が男の子やユース男性に比べて直面する障壁を認識し、彼女たちが政策立案やその他のプロセスに積極的に取り組み、参加できるようにするための資源を配分することにより 、その貢献が反映され、実行されるようするべきである。

» **災害リスク軽減、適応策、損失と損害、資金調達を含む気候変動対策に多様な女の子とユース女性が容易に参加できる環境を整備する。** これには、女の子やユース女性が地域の問題について話し合い、解決策を提案するための非公式なチャンネルの設置も含まれる。例えば、「気候変動に焦点を当てた子どもの権利と環境に関する一般的意見第26号」の策定は、女の子とユース女性を変革の担い手として位置づけ、彼女たちが草案の作成プロセスに積極的に参加できるようにする場を設けている。

» **教育省、市民社会の関係者、メディア部門と協力して、気候変動、災害リスク、ジェンダー平等に関する教育や意識向上を支援し、女の子やユース女性が主導する気候変動運動を奨励し、開かれた市民社会の空間を確保する。** ジェンダー平等、気候変動、サイバーセーフティ教育を普及させ、若い世代が適切な知識とスキルを身につけることで、ユース主導の気候変動運動を育成する。

» 特に地方や遠隔地において、女の子や女性を含む**すべての人びとのインターネットをアクセス改善し**、デジタルインフラとそのセキュリティを向上させる。

9.2. 市民社会アクター向け

非営利団体（NPO）、草の根グループ、プランのようにユースを中心に活動する団体など、市民社会の様々なアクターは、国連機関や国際政府間組織と連携し、気候変動に関する運動や提唱活動において、女の子やユース女性の能力を育成する重要な役割を果たす可能性がある。これらのアクターは以下のような活動を通じて、変化を促進し、その効果を高めることができる。

- **女の子とユース女性が意思決定過程において重要な役割を果たすことを促すため、地方から国、地域、さらには国際レベルに至るまでの主要な意思決定者と協働する。以下の方法で政策の変更を推進する。**
  - » 気候変動やその他の社会正義を含むあらゆる問題に関して、性別に関わらずユースが意見や考えを表現できる正式または非正式のメカニズムを提唱し、その意見が尊重され実行されるよう努める。
  - » 女の子やユース女性、および彼女たちの活動が、市民社会や意思決定の場において正当な行動主体や勢力として認識されるように提唱する。
  - » »ユース女性活動家とあらゆるレベルの意思決定者との関係を促進および強化し、ユースリーダーの声が適切な聴衆に届くようにサポートする。
  - » ASEAN、SAARC、SPCなどの組織が開催する会合や会議にユース女性活動家を招待するなど、地域の意思決定プロセスや政策フォーラムへの参加を促進する。
- **女の子とユース女性をリーダーや変革の担い手として迎え入れ、より包摂的で開かれた安全な市民スペースの創造を目指す。これを達成するために、多様な市民社会アクターと協力して以下の活動を行う。**
  - » 女の子とユース女性の参加、ジェンダー平等、そして彼女たちの力と潜在能力に関して、子どもの参加権や関連する国際政策を広く認識させる活動を強化する。また、女の子とユース女性の市民参加を妨げる特有のジェンダー規範や差別に積極的に対峙し、聴衆に特化した多様なコミュニケーション手法を活用する。
  - » ユース主導の運動や、ユースが変革者として持つ力と潜在能力について、一般市民の理解を深めることで、ユースの市民参加を妨げる年齢に基づく差別に立ち向かう。
  - » 男の子と男性に焦点を当て、女の子やユース女性の提唱活動やリーダーシップを支援する機会を創出する。
  - » 人権、活動、社会正義などの課題に取り組む国際的、地域的、地方的なネットワークや組織と連携し、女の子やユース女性の声を拡大し、彼女たちが支援を受けられる安全なネットワークを提供する。
  - » 地域および世界レベルで注目度の高いイベントを活用し、女の子とユース女性の取り組みを支援し促進する。
  - » オンラインおよびオフラインの市民スペースを監視し、ユース女性活動家が安全して活動できる環境を保つためのリスク分析と軽減計画を提供する。
- **ユース女性支援者が市民参加と活動を維持し、政治的なスキルと能力を向上させるために、次のような支援を提供する。**
  - » 女の子やユース女性、彼女たちのグループや運動に直接的な資金援助を行うことにより、潜在的な資金提供者との連携を促し、資金調達のスキルを向上させる。
  - » 女の子やユース女性が彼女たちの活動や提唱活動を行う中で直面するリスク、例えばメンタルヘルスの問題や、安全確保、サイバーセーフティの問題に対応するための支援サービスを提供し、適切なネットワークに彼女たちをつなげる。
  - » オンラインおよびオフラインでの活動、提唱活動、リーダーシップスキルを高めるための年齢に応じた研修を実施する。
  - » 女の子やユース女性が活動や提唱活動と学業と両立させられるよう、時間管理などのソフトスキル研修を提供する。また、教育機関が提唱活動を教育的に価値あるものと認識し、学生の提唱活動への参加に学校の単位が認定されるよう働きかける。

» 学校、ユースクラブ、あるいはコミュニティ内でユースが安全に提唱活動や活動に参加し、それを実践できる環境を増やし、そのための提唱を行う。

» ユース女性活動家が、自分たちの取り組みを推進するための経験やストーリー、戦術、ツール、戦略を共有し、感情的、身体的、人的、社会的、物質的なサポートが必要な際にそれを求めることができる場として、オンラインおよびオフラインのプラットフォームを通じて、地域コミュニティの活動家や活動家をつなげるネットワーク構築と交流の促進を図る。このネットワークは、活動経験豊かな活動家と最近活動に参加し始めた女の子やユース女性との間で、メンタリングセッションや世代を超えた対話を行い、相互の成長と団結を支援することを目的としている。

» 女の子やユース女性が主導するグループが、障害を持つ女の子やユース女性、その他の社会的に疎外されがちなグループが、あらゆる提唱活動に参加しやすいように、抱摂的なメカニズムの確保を支援する。

9.3. ユース活動家向け

ユースは既に、自身のコミュニティや社会におけるリーダーや変革をもたらす存在としての役割を果たす。彼らは変化を生み出し、将来のビジョンを形成するために継続的な努力を行うことができる。しかし同時に、ユース、特に女の子やユース女性がリスクを最小化しつつ、彼らの提唱する活動の効果を最大限に引き出すためには、適切な資源へのアクセスを保証するための綿密な支援が求められる。ユース女性活動家は以下のような活動を通じて支援されるべきである。

- **自国や地域におけるユース女性活動家の仲間と連帯し、**情報やツール、戦術、戦略を交換し、経験や直面している課題を共有することで相互支援を促進する。例えば、活動家がどのように活動とその他の責任を両立させるか、あるいは社会からの批判にどのように対処するかといった情報の共有である。これは、例えば気候正義を目指すユース女性活動家の地域ネットワークを形成することで実現し、ネットワーク内で協力し合いながら、最善のアプローチをを体系的に共有し、記録に残すことが可能になる。
- **ユース女性活動家が、**以下の分野に関する**情報や研修を求め、また共有する。**
  - » 活動や提唱活動において、デジタルおよびオンラインプラットフォームを効果的かつ安全に活用する方法
  - » 活動や市民活動が個人のメンタルヘルスに与える影響を理解し、それにどう対処するか
  - » キャンペーンや提唱活動を効果的かつ安全に行い、主導していく方法
- **地方や遠隔地に住むユース女性活動家がグループ活動や運動に参加できるように、平等な機会とアクセスを保証する。**
- 女の子やユース女性が市民スペースや気候変動運動で発言し参加することを困難にしている**社会的な障壁を認識し、それに立ち向かい、改善を目指す。**
- **ソーシャルメディアを活用して、広範囲にリーチを拡大し、**国際政策フォーラムなどの**高い関心を集めるイベント**を通じて、ソーシャルメディア上での存在感やメッセージを強化する。

X 参考文献

Aggarwal, D., Esquivel, N., Hocquet, R., Martin, K., Mungo, C., Nazareth, A., Nikam, J., Odenyo, J., Ravindran, B., Kurinji, L. S., Shawoo, Z., & Yamada, K. (2022). *Charting a youth vision for a just and sustainable future*. Stockholm Environment Institute. https://doi.org/10.51414/sei2022.010

Albrecht, G. (2005). "Solastalgia". A new concept in health and identity. *PAN: Philosophy Activism Nature*, *3*, 41–55.

Albrecht, G., Sartore, G.-M., Connor, L., Higginbotham, N., Freeman, S., Kelly, B., Stain, H., Tonna, A., & Pollard, G. (2007). Solastalgia: The distress caused by environmental change. *Australasian Psychiatry*, *15*(sup1), S95–S98.

Banerji, A. (2020, June 2). Don't call me "Greta": Young climate activists demand to be heard. *Reuters*. https://www.eco-business.com/news/dont-call-me-greta-young-climate-activists-demand-to-be-heard/

Benigno, T. B. (2021). Girls and activism in a neoliberal time: How teen girls from Toronto negotiate care, activism, and extraordinary girlhood. *Global Studies of Childhood*, 17.

Bent, E. (2019). *Unfiltered and Unapologetic: March for Our Lives and the Political Boundaries of Age*. 20.

Bhattarai, S. (2021, March 3). Women moving Nepal's climate activism. *Nepali Times*. https://www.nepalitimes.com/banner/women-moving-nepals-climate-activism/

Boyland, M., & Johnson, K. (2018). *Climate change, young women and girls: Vulnerability, impacts and adaptation in Northern Thailand*. https://www.sei.org/publications/climate-change-young-women-girls-vulnerability-impacts-adaptation-northern-thailand/

Boyland, M., Tran, M., Kwamboka, E., & Njoroge, G. (2021). *Landscape analysis on young people's engagement in climate change and health in six LMICs in Africa and Asia*. https://www.sei.org/publications/youth-engagement-climate-change-health-lmics-africa-asia/

Burke, S. E. L., Sanson, A. V., & Van Hoorn, J. (2018). The Psychological Effects of Climate Change on Children. *Current Psychiatry Reports*, *20*(5), 35. https://doi.org/10.1007/s11920-018-0896-9

CIVICUS. (2021). *People Power Under Attack 2021: A report based on data from the CIVICUS Monitor*. https://civicus.contentfiles.net/media/assets/file/2021GlobalReport.pdf

CIVICUS Monitor. (n.d.). *Ratings—CIVICUS - Tracking conditions for citizen action*. Retrieved December 17, 2022, from https://monitor.civicus.org/Ratings/

Clayton, S. (2020). Climate anxiety: Psychological responses to climate change. *Journal of Anxiety Disorders*, *74*, 102263. https://doi.org/10.1016/j.janxdis.2020.102263

Cocco-Klein, S., & Mauger, B. (2018). Children's Leadership on Climate Change: What Can We Learn from Child-Led Initiatives in the U.S. and the Pacific Islands? *Children, Youth and Environments*, *28*(1), 90. https://doi.org/10.7721/chilyoutenvi.28.1.0090

Conover, M. D., Ferrara, E., Menczer, F., & Flammini, A. (2013). The Digital Evolution of Occupy Wall Street. *PLoS ONE*, *8*(5), e64679. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0064679

Crandon, T. J., Scott, J. G., Charlson, F. J., & Thomas, H. J. (2022). A social–ecological perspective on climate anxiety in children and adolescents. *Nature Climate Change*, *12*(2), Article 2. https://doi.org/10.1038/s41558-021-01251-y

Curnow, J. (2019, September 15). #Fridaysforfuture: When youth push the environmental movement towards climate justice. *The Conversation*. http://theconversation.com/fridaysforfuture-when-youth-push-the-environmental-movement-towards-climate-justice-115694

Dickie, M. (2021, November 5). 'After Greta': Young activists harness social media to fire up global campaigns. *Financial Times*. https://www.ft.com/content/4dbd59ea-b219-43af-bb58-50c284cbf521

Eide, E., & Kunelius, R. (2021). Voices of a generation the communicative power of youth activism. *Climatic Change*, *169*(1), 6. https://doi.org/10.1007/s10584-021-03211-z

Habu, G. (2020, November 18). *Engulfed by the sea: The loss and damage from climate change*. International Institute for Environment and Development. https://www.iied.org/engulfed-sea-loss-damage-climate-change

Huang, T.-C., & Bent, E. (2022). When Girls Lead: Changing the Playbook for Climate Justice. *Girlhood Studies*, *15*(2), 35–52. https://doi.org/10.3167/ghs.2022.150204

Jenders, M., Kasneci, G., & Naumann, F. (2013). Analyzing and predicting viral tweets. *Proceedings of the 22nd International Conference on World Wide Web*, 657–664. https://doi.org/10.1145/2487788.2488017

Jha, P. (2019, November 10). The Young Activists Fighting Southeast Asia's Climate Crisis. *The Diplomat*. https://thediplomat.com/2019/10/the-young-activists-fighting-southeast-asias-climate-crisis/

Jiménez-Zafra, S. M., Sáez-Castillo, A. J., Conde-Sánchez, A., & Martín-Valdivia, M. T. (2021). How do sentiments affect virality on Twitter? *Royal Society Open Science*, *8*(4), 201756. https://doi.org/10.1098/rsos.201756

Marris, E. (2019). Why young climate activists have captured the world's attention. *Nature*, *573*(7775), 471–472. https://doi.org/10.1038/d41586-019-02696-0

Okutsu, A. (2021, February 10). Youth climate activists spread Greta Thunberg's message in Asia. *Nikkei Asia*. https://asia.nikkei.com/Spotlight/Environment/Climate-Change/Youth-climate-activists-spread-Greta-Thunberg-s-message-in-Asia

Pacific Islands Students Fighting Climate Change (Director). (2019, August 7). *Cynthia Houniuhi interview* [Youtube]. https://www.youtube.com/watch?v=Xpb5HpX_69A

PISFCC. (n.d.-a). *Educate and Activate Youth—Pacific Islands Students Fighting Climate Change | Seeking an Advisory Opinion from the ICJ*. Pacific Islands Students Fighting Climate Change. Retrieved December 17, 2022, from https://www.pisfcc.org/educate

PISFCC. (n.d.-b). *ICJAO Campaign—Pacific Islands Students Fighting Climate Change | Seeking an Advisory Opinion from the ICJ*. Pacific Islands Students Fighting Climate Change. Retrieved December 17, 2022, from https://www.pisfcc.org/icjao

Plan International. (n.d.). Climate Change Activism. *Plan International*. Retrieved December 5, 2022, from https://plan-international.org/youth-empowerment/climate-change-activism/

Pomputius, A. (2019). Can You Hear Me Now? Social Listening as a Strategy for Understanding User Needs. *Medical Reference Services Quarterly*, *38*(2), 181–186. https://doi.org/10.1080/02763869.2019.1588042

Raby, R., & Sheppard, L. C. (2021). Constructs of childhood, generation and heroism in editorials on young people's climate change activism: Their mobilisation and effects. *Children & Society*, *35*(3), 380–394. https://doi.org/10.1111/chso.12447

Ritchie, J. (2021). Movement from the margins to global recognition: Climate change activism by young people and in particular indigenous youth. *International Studies in Sociology of Education*, *30*(1–2), 53–72. https://doi.org/10.1080/09620214.2020.1854830

Samuel, J., Garvey, M., & Kashyap, R. (2020). That message went viral?! exploratory analytics and sentiment analysis into the propagation of tweets. *ArXiv Preprint ArXiv:2004.09718*.

Sarrafoglu, A. (2022, August 20). Shreya KC: We are the most important generation on Earth to solve the planet's triple crisis [Climate Generation -30] - Yeşil Gazete. *Yesil Gazete*. https://yesilgazete.org/shreya-kc-we-are-the-most-important-generation-on-earth-to-solve-the-planets-triple-crisis-climate-generation-30/

Taft, J. K. (2020). Hopeful, Harmless, and Heroic: Figuring the Girl Activist as Global Savior. *Girlhood Studies*, *13*(2), 1–17. https://doi.org/10.3167/ghs.2020.130203

The Islands are Calling. (2021). Pacific Islands Students Fighting Climate Change. https://www.youtube.com/watch?v=C32yxdqUuN8

Thew, H., Middlemiss, L., & Paavola, J. (2020). "Youth is not a political position": Exploring justice claims-making in the UN Climate Change Negotiations. *Global Environmental Change*, *61*, 102036. https://doi.org/10.1016/j.gloenvcha.2020.102036

Tsugawa, S., & Ohsaki, H. (2017). On the relation between message sentiment and its virality on social media. *Social Network Analysis and Mining*, *7*(1), 19. https://doi.org/10.1007/s13278-017-0439-0

Vanner, C., & Dugal, A. (2020). Personal, Powerful, Political: Activist Networks by, for, and with Girls and Young Women. *Girlhood Studies*, *13*(2), vii–xv. https://doi.org/10.3167/ghs.2020.130202

W., W. (n.d.). *How is Sentiment Assigned? | Meltwater Help Center*. Retrieved December 22, 2022, from https://help.meltwater.com/en/articles/4064558-how-is-sentiment-assigned

Wihbey, J. (2014). The Challenges of Democratizing News and Information: Examining Data on Social Media, Viral Patterns and Digital Influence. *Shorenstein Center on Media, Politics and Public Policy Discussion Paper Series*. https://doi.org/10.2139/ssrn.2466058

Wong, S. L. (2020, April 22). Climate Action: Youth-Led, Not Youth-Only. *Macaranga*. https://www.macaranga.org/climate-action-youth-led-not-youth-only/

Wu, J., Snell, G., & Samji, H. (2020). Climate anxiety in young people: A call to action. *The Lancet Planetary Health*, *4*(10), e435–e436. https://doi.org/10.1016/S2542-5196(20)30223-0

付録A: 文献レビューにあたっての検索キーワード

Climate change	*Young people*	*Engagement*
Climate crisis	Youth	Leader/leadership
Climate emergency	Child*/children	Involvement
Global warming	Boy*	Activism
Global heating	Girl*	Participation
Extreme temperature	Adolescent*	Consultation
Drought*	Kid*	Justice
Flood*	Student*	Co-production
Storm*	Teenager*/teen*	Co-creation
Heat wave*		Equity
Heat*		
Heat exposure		
Hurricane*		
Typhoon*		

付録B: Meltwaterの検索キーワードの仕様

Platform: Meltwater

Duration: 29 September 2021 (12.00 AM) - 29 September 2022 (12.00 AM)

Language: English

Locations: Asia and the Pacific (59 countries)

Sources: Twitter

Search keywords

((disaster OR “Natural disaster” OR “Natural hazard” OR “Emergency response” OR “Humanitarian crisis” OR “Disaster response” OR “Disaster preparedness” OR “Disaster prevention” OR “Disaster mitigation” OR “Disaster risk reduction” OR “Disaster resilience” OR “Disaster education” OR “Early warning system” OR “Sendai framework” OR sfdrr OR flood OR drought OR typhoon OR “Tropical storm” OR cyclone OR hurricane OR earthquake OR tsunami OR landslide OR famine OR “Climate change” OR “Heat wave” OR “Extreme temperature” OR “Climate crisis” OR “Climate emergency” OR “Global warming” OR “Global heating” OR “Climate action” OR “Climate adaptation” OR “Climate mitigation” OR “Loss and damage” OR “Climate resilience” OR “Climate vulnerability” OR cop26 OR cop27 OR “Climate negotiations” OR “Paris Agreement” OR “Nationally Determined Contribution” OR ndc OR “Carbon emissions” OR “CO2 emissions” OR “Greenhouse gas emissions” OR “Renewable energy” OR “Clean fuel” OR “Green energy” OR “Just transition” OR “Sustainable development” OR sustainability OR “Sustainable Development Goals” OR sdg)

AND (“girls” OR “girl” OR “Young woman” OR “Young women” OR “Young female”)

AND (activis* OR advoca* OR participat* OR leader* OR “Fridays for Future” OR “School strike for climate” OR “Climate strike” OR “Climate justice” OR “Climate equity” OR campaign* OR champion* OR warrior* OR movement* OR mobilis* OR mobiliz* OR organiz* OR organis* OR fight* OR defend* OR changemaker* OR protest* OR #youth4climate OR #schoolstrike OR #climatestrike OR #fridaysforfuture))

付録C: オンライン調査アンケート

*Question (Questions marked with * are mandatory)*	*Answer*
Section 1: About you	
1. Age*	
2. Do you identify as a person with disability?*	Multiple choice a. Yes b. No c. Prefer not to say
3. Do you identify as a member of an Indigenous group or an ethnic minority?*	Multiple choice a. Yes b. No c. Prefer not to say
4. Where do you live?*	Multiple choice a. Urban area b. Rural area c. Other (e.g., semi-urban or semi-rural area)
5. Country of residence	TEXT
6. Educational/employment status	Multiple choice a. Enrolled in a primary/secondary school b. Enrolled in a high school c. Enrolled in a university/college/higher education d. Not enrolled in school; employed or having own business e. Not enrolled in school; unemployed
Section 2: Climate change advocacy	
7. How long have you been participating in climate change-related activities ?	Multiple choice a. Less than a year b. 1-2 years c. 3-5 years d. Over 5 years
8. Are you an independent advocate?	Multiple choice – if yes, skip to q13 a. Yes, I am not working or affiliated with any group or organization b. No
9. List the climate-related groups, movements and mobilizations you are working or associated with (e.g. a job or voluntary work)	TEXT
10. Who leads the above group or movement? (the group you are most active in, if you are with more than one group)	Select all that apply a. Men over 25 years old b. Women over 25 years old c. Girls and youth/young women (aged up to 24 years old) d. Boys and youth/young men (aged up to 24 years old) e. Other
11. How would you describe the role of girls and young women like you in decision making in the group?	Multiple choice a. We play an active role in decision making b. We are consulted, but have limited influence over decision making c. We are not taken seriously in decision making d. Other

*Question (Questions marked with * are mandatory)*	*Answer*
12. Your key role in the above group(s) or movement(s)	Select all that apply a. Group leader b. Communication and advocacy c. Fundraising d. Event planning e. Human resources f. Strategy development g. Other -~~text~~
13. What are the main focuses/ causes for your advocacy?	Select all that apply a. Climate action b. Climate change adaptation c. Climate change mitigation d. Loss and damage e. Climate change awareness f. Climate/disaster justice g. Disaster risk reduction h. Sustainable development i. Gender equality, social justice and/or human rights j. Other
14. Do you and/or your team advocate with or for any of the following vulnerable communities?	Select all that apply a. Children and youth b. Women and girls c. LGBTQ+ d. People with disabilities e. Racial and ethnic minorities and/or Indigenous Peoples f. Senior citizens g. Migrants, refugees and asylum seekers h. Poor people i. Other
15. What actors, groups or institutions is your advocacy aimed at influencing?	Select all that apply a. Regional or international decision-making bodies (ASEAN, SAARC, SPC, UN, etc.) b. National government c. Sub-national government d. The community e. Civil society actors f. Private sector g. Young people and/or school students h. The media i. Other
Section 3: Motivations, challenges and support	

*Question (Questions marked with * are mandatory)*	*Answer*
16. What motivated you to take part in climate change issues and advocacy?	Select all that apply a. I or other people in my community have been affected by climate change and/or disaster. b. I am concerned about climate change and our future c. I am concerned about social justice d. I am interested in climate change, disaster and/or sustainability science e. I am participating as part of an educational requirement/ program f. My friends and or colleagues asked me to join g. I am inspired by other youth activists in my hometown, country or region h. I am inspired by international youth activists I see on the media i. I am inspired by adult climate activists I see on the media j. I am inspired by adult climate activists I see in my hometown, country or region k. I am employed or get paid to participate l. Other
17. What challenges do you face in your advocacy?	Select top 3 a. Limited financial resources b. Limited human resources c. Limited time for activism d. Limiting civic space e. Limited support and recognition because of my age f. Limited support and recognition because of my gender g. Inaction and empty promises from decision makers h. Limited knowledge, capacities and skills i. Limited interests from people around me j. Limited awareness from people around me k. Safety concerns l. Other
18. Which of the following skills do you think are important but missing in your advocacy?	Select top 3 a. Knowledge about climate change or disaster sciences b. Knowledge about social justice c. Understanding of climate change or disaster policies d. Understanding of climate change or disaster decision making process e. Communication skills f. Lobbying and advocacy skills g. Project management skills h. Human resource management skills i. Fundraising, budgeting and financial management skills j. Critical thinking skills k. Strategy development skills l. Monitoring and evaluation skills m. Event planning skills n. Other
19. Which of the following policy-making processes are you and/or your group engaged in?	Select all that apply a. Issue identification b. Agenda setting c. Public consultation d. Policy design and formulation e. Policy implementation f. Monitoring and evaluation g. Other

*Question (Questions marked with * are mandatory)*	*Answer*
20. do you agree with the following statements?	Totally disagree Somewhat disagree Neutral Somewhat agree Totally agree Youth-led climate movements in my area/locality are welcomed and encouraged by the public (e.g., my teachers, peers, colleagues, families, and neighbours, etc.)
21.	Youth-led climate movements in my area/locality are welcomed and encouraged by the government.
22.	Youth-led climate movements in my area/locality are welcomed and encouraged by civil society actors (e.g., non-profit organizations, other movements, etc.)
23.	Government actors in the climate change sector are responsive (listen to, recognize, respect, act on, etc.) to young people's opinions and activism in my area/locality.
24.	Civil society actors in the climate change sector are responsive (listen to, recognize, respect, act on, etc.) to young people's opinions and activism in my area/locality.
25.	I am satisfied with mainstream media's coverage of women and girls in climate activism in my area/locality.
	Being a girl/woman is a challenge in my civic engagement.
26.	Being a girl/woman motivates be to advocate for climate change and justice.
27.	As climate advocates, boys and young men receive more attention and have more influence than girls and women.
28.	I find it necessary to engage boys and men as allies in my advocacy.
29.	I am know personally female leaders, policy makers and politicians working on climate change and justice in my country or region.
30.	I feel supported and empowered when working with female leaders and politicians.
31.	I feel confident that I can reach out to female leaders, policy makers and politicians working on climate change and justice when I need their help.
Section 4: Digital communications and social media	
32. Which of the following channels or platforms do you use the most for your advocacy? Select top 3	a. Online newspapers, magazines, forums b. Social media (facebook, twitter, tiktok, youtube, Instagram, etc.) c. Offline/traditional media (TV, radio, newspaper…) d. In-person events or gathering e. Online events or gathering f. Official political channels (public hearing, policy dialogue, etc.) Other

*Question (Questions marked with * are mandatory)*	*Answer*
33. On a scale of 1-5, how would you rate the effectiveness of the channels or platforms for your advocacy?	Totally disagree Somewhat disagree Neutral Somewhat agree Totally agree a. Online newspapers, magazines, forums b. Social media (facebook, twitter, tiktok, youtube, Instagram, etc.) c. Offline/traditional media (TV, radio, newspaper…) d. In-person events or gathering e. Online events or gathering f. Official political channels (public hearing, policy dialogue, etc.)
34. How do you use social media in your advocacy?	Select all that apply a. I do not use social media b. I do not use social media, but plan to do so in the future c. For keeping in touch and connecting with other team members d. For recruiting and connecting with other groups, activists, youth leaders, etc. e. For increasing public awareness f. For policy advocacy g. Other
35. Which of the following channels do you use the most for your advocacy?	Select all that apply a. Facebook b. LinkedIn c. Twitter d. Instagram e. Tiktok f. Youtube g. Line h. Whatsapp i. Messenger j. Telegram k. WeChat l. Slack m. Snapchat n. Other
36. how would you rate the effectiveness of the above social media and communication tools for your advocacy?	Not effective at all Not very effective Neutral Somewhat effective Highly effective

付録D: インタビューのためのガイドライン質問

Key informant interviews with girls and young women

Opening questions

1. Can you tell us about the climate movement/group you are involved in? (are you an independent activist, or member of a group? If part of a group, who are the other members? If independent, are there any other activists or groups that you partner with?)
2. Can you tell us how you became a climate activist? What motivated you, or why? Can you talk about the role of gender and or climate justice in your activism?

Civic space

1. Can you tell us about the climate movement in your country?
2. Can you tell us about youth activism in your country?
3. How has your projects/initiatives been received? By the government? By the public? What do you think drives such responses?
4. What worries/concerns you the most about participating in the climate change movement in your country? (e.g., safety, school/work, impact, relationship with family and friends, blacklash, adults support, etc.)

Allies and enablers

1. As a young female activist, what do you think of the role of men and boys in climate justice? Do you engage with them (and how)?
2. As a young female activist, who do you most often work with in your mobilization? (is it CSO, NGO, CBO, INGO, UN or others?) Who do you find most supportive? What are the types of supports that you seek for? Who do you find most strategic to work alongside? How do you reach out and stay connected to those supporters? How can they support you better?
3. Do you feel supported or empowered by the presence of female politicians or government officials?
4. What resources or support do you find most helpful for your activism? Which one is accessible, which is not? How child- or youth-friendly are these resources? How do they address your needs as a young woman or girl?

Tools, tactics and approaches

1. Can you tell us about your experience in climate activism as a young person? How does being a woman influence your experience? What other factors influence your experience? How do you take advantage of or overcome these issues?
2. Do you use online channels or social media for your movement? Can you tell us more about it? What are the challenges of online/digital activism? What are the benefits?
3. Can you tell us about your engagement in the political space? Do you target directly to policymakers or though other supporting agencies in your activism? What is working and what is not?
4. How do you seek out or engage with like-minded activists?

Key informant interviews with CSOs and government representatives

Opening questions

1. Can you tell us about your work? Which organization are you with and what is your mandate?
2. Do you work with children and young people? If yes, can you tell us more about your work with girls and young women specifically?

Climate activism

1. How familiar are you with climate movement or activities led by young women and girls in your country and/or area? Can you tell us more about such movements? How did you get to know about them? Can you tell us about the role of social media and digital communication in climate activism?
2. What impacts do you think these groups are achieving? On whom? At which level of governance? Any observed policy impacts?
3. How have you and your organisation supported (or plan to support in the future) girls-led climate activism? If so, what kind of support do you think is most helpful or needed? How should they address girls and young women's unique needs and capacities?

Girls' activism and leadership

1. In your opinion and observation, what distinguishes women and girls' activism from their peers, i.e. men and boys?
2. What do you think about girls and young women engaging in the climate change movement?
3. What do you think are the enablers to their movement?
4. What do you think are the challenges and barriers they face?
5. What do you think is the role of social media and digital communication in their movement? What are the advantages and disadvantageous of these online channels?

6. What do you think are the potential to increase the impacts of girls' activism in your country and/or area?

Closing

1. Do you have any final comment or reflection on the existing civic space for young women and girls as civic leaders?
2. Do you have any questions for us?

付録E: インドネシア、ネパール、ソロモン諸島における気候変動対策とユース

Indonesia's climate change policies have few references to the inclusion of young people and to gender equality. The country's Enhanced Nationally Determined Contribution (2022) mentions the development and implementation of mechanisms for community participation, considering gender equality, vulnerable groups including children, and intergenerational needs. However, neither the policy nor its National Adaptation Plan articulates any other concerns regarding children and young people and their role.

In Nepal, the 2019 National Climate Change Policy contains language meant to enhance the capacity of and address concerns of all vulnerable groups. It emphasized mobilizing youth for human resources for raising awareness and climate change research. The policy, as well as Nepal's National Adaptation Plan, suggested the creation of Youth Volunteer Committees at the local level for climate-induced disaster management. Nepal's Nationally Determined Contribution promotes the leadership, participation and negotiation capacity of women, Indigenous peoples and young people in climate change forums. It highlights their involvement in all stages of policy planning and implementation, including "specific programs with dedicated resources to ensure full, equal and meaningful participation" of these groups.

In Solomon Islands, gender equality and young people's inclusion are highlighted as key priorities and principles of climate policies. Its 2021 Nationally Determined Contribution lists as a key focus gender consideration in disaster and climate action, along with the inclusion of women and young people in capacity building for vulnerable groups. Similarly, the country's National Climate Change Policy (2012–2017) refers to gender equity and the involvement of children, young people and people with special needs under its guiding principles. It highlights the need to involve young people and women in policy implementation. These policies, however, do not articulate any further detail how such priorities and principles can be implemented. Solomon Islands' policy in the country's National Adaptation Programmes of Action (2008) is the only one in this review to state that the government consulted with youth groups and women in the policy formulation processes. The policy also recognizes the role of youth and women in raising community awareness.

Plan International Asia-Pacific
14th Floor, 253 Building,
Sukhumvit 21 (Asoke) Road,
Klongtoey Nua, Bangkok, Wattana 10110,
Thailand

Stockholm Environment Institute
Linnégatan 87D, Box 24218
104 51 Stockholm, Sweden
Tel: +46 8 30 80 44

Contact:
minh.tran@sei.org
visit us: sei.org
@SEIresearch
@SEIclimate